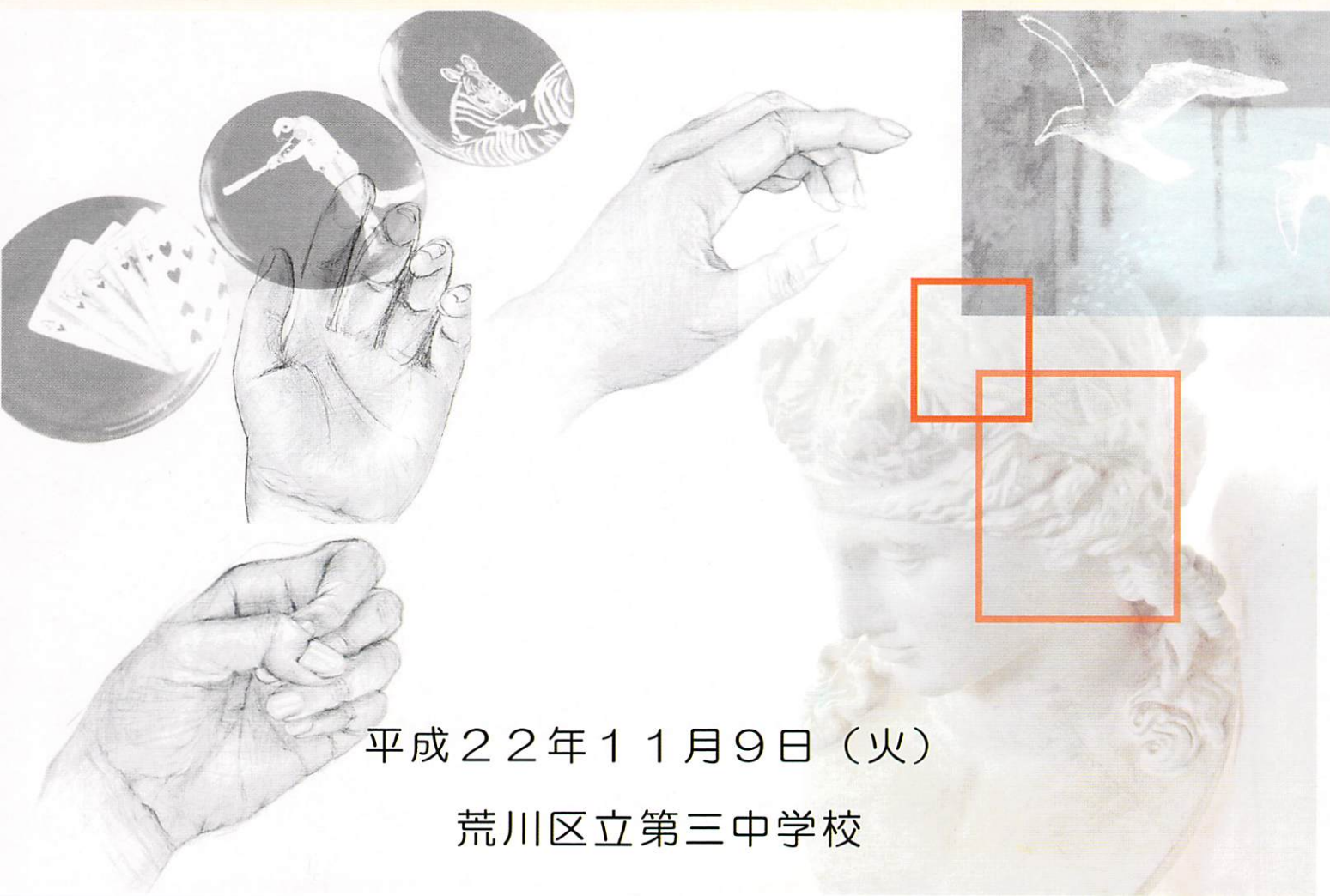


第28回 東京都中学校美術教育研究大会

第5ブロック 荒川大会

イメージを形に

～ 鉛筆デッサンから 自己表現まで ～



平成22年11月9日（火）

荒川区立第三中学校

大会紀要目次

あいさつ	荒川区教育委員会教育長	川寄 祐弘	1
	東京都中学校美術教育研究会会長	大野 雅生	2
	第28回美術教育研究大会実行委員長	藤崎 勝	3
I 大会要項と内容			4
II 基調提案	大会研究局長	上村 博美	6
III 記念講演	国立西洋美術館主任研究員	寺島 洋子 先生	7
IV 研究授業指導案			
■研究授業1	ジオラマを作る		
	足立区立入谷南中学校	佐久間 善紀	8
■研究授業2	マンガを描こう ～かおを中心に～		
	台東区立柏葉中学校	橋本 竜夫	10
■研究授業3	ポップアップカードの制作		
	荒川区立第四中学校	小林 秀樹	12
■研究授業4	水彩スケッチ『私のマグカップ』		
	中央区立銀座中学校	小島 晴美	14
V 誌上発表指導案			
■誌上発表1	塑像 『〇〇へ贈るケーキを作る』		
	荒川区立第五中学校	玉井 かおり	16
■誌上発表2	日本（江戸）の文様でデザインしよう！～わたしのきもの		
	荒川区立諏訪台中学校	田邊 薫	18
■誌上発表3	バルサを使ってイメージを形に		
	荒川区立第三中学校	梶田 久仁子	20
■誌上発表4	3つのかたちをぴたっと塗る		
	中央区立佃中学校	横山 寿子	22
■誌上発表5	水墨画で自画像を描く		
	中央区立日本橋中学校	上村 博美	24
■誌上発表6	アイデア豊かな、絵文字レリーフの制作		
	台東区立御徒町台東中学校	大谷 智子	26
■誌上発表7	有名な作品をじっくり鑑賞して話会おう！ ～ロダン「考える人」、モネ「睡蓮」から～		
	台東区立上野中学校	高原 都	28
■誌上発表8	こころのなかの世界から ～ボールペンによる空想画～		
	足立区立花保中学校	平岡 いづみ	30
■誌上発表9	構成自画像の制作 ～油絵具を使って～		
	足立区立第十中学校	鍬形 志穂	32
■誌上発表10	螺鈿工芸「小皿作り」		
	足立区立谷中学校	水上 智美	34
VI あとがき	大会副実行委員長	池田 浩二	35
VII 大会運営組織一覧			36
VIII 都中美研究大会開催地一覧			37

あいさつ

荒川区教育委員会教育長

川寄 祐弘



第28回中学校美術教育研究大会（5ブロック）が荒川区立第三中学校を会場に、研究テーマを「イメージを形に～鉛筆デッサンから自己表現まで～」と掲げ、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

さて、平成20年3月に改訂された学習指導要領の美術科の目標は「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」とあります。今回の改訂では、生徒一人一人の資質や能力の向上と、自己実現を図ることを一層重視しております。本研究に対して次の2点から、その研究成果に大きく期待しております。

まず、創造活動は、新しいものをつくり出す活動であり、創造活動の喜びは美術の学習を通して生徒一人一人が楽しく主体的、個性的に自己を発揮したときに味わうことができます。すなわち、表現活動においては、ただ自由に表現するというのではなく、自己の心情や考え、イメージを基に自分が表現したいことをしっかりと意識して考え、それが自分の表現方法で作品として表現されることが、まさに本研究テーマにある「自己表現」につながるものであると受け止めております。

次に、デッサンとは、絵を描いて自分を表現するための、基礎となる部分であり、デッサンの力は、自分を表現する大きな手助けとなります。デッサンは基礎的な造形力をつけるために欠くことのできない題材であり、対象をしっかりと観察し、描写力や表現力の向上を図るとともに、根気強く努力し表現する活動に取り組む姿勢を養うことができます。デッサンにおいても自分の気持ちや感情が表現でき、気持ちを込めて表現させることが、本研究テーマに迫るものと考えます。

荒川区教育委員会では、平成19年3月に「荒川区学校教育ビジョン」を策定しました。荒川区の次代を担う子どもたちが、学校や地域社会での様々な経験を通じてたくましく生きる力を培い、個性や能力を十分に発揮し、人間性豊かに成長していくことは、区民全体の大きな願いであります。とりわけ9年間の義務教育は、その基礎を培う重要な責務を担っており、積極的な教育行政を進めるとともに学校教育の充実を図っております。施策の柱は、「子供一人一人の可能性を伸ばす」「豊かな感性や創造力をはぐくむ」「社会的自立の基礎を培う」としております。荒川区の教育におきましても、まさに生徒一人一人が主体的に個性的に自己を発揮する教育に力を入れております。

この美術教育によって培われた力が、学校行事や日常生活を豊かにし、発想力・創造力・表現力を育てていくことを期待しています。そして、自分らしさを表現する活動により、自己肯定感を高め、他者を理解し、信頼関係を築いていくものと確信しております。

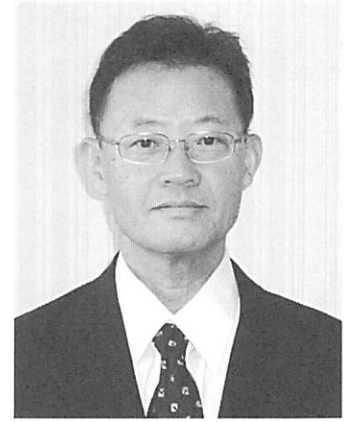
今後、研究会の研究の成果が、多くの学校で積極的に生かされることにより、東京都の美術教育が一層充実していくことを心から願っております。

結びに、本研究大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた本研究会会長の大野雅生校長先生、実行委員長の藤崎 勝校長先生をはじめ、熱心に取り組まれた諸先生方に心から感謝を申し上げ、挨拶といたします。

あいさつ

東京都中学校美術教育研究会 会長

大野 雅生



このたび、第28回東京都中学校美術教育研究大会第5ブロック荒川大会が、多数の先生方の参加を得て、ここ荒川区で開催されますことを、大変に喜ばしく、意義深いことと感じております。

中学校では、新学習指導要領の完全実施を2年後に控えています。東京都中学校美術教育研究会においても、それを見据えて研修を行なっております。小学校・中学校の連携教育、美術館を活用した鑑賞教育、日本の伝統美術の理解など様々な研究に取り組んでおります。

さらに、各地区の美術研究会では先行実施を始めた学校での実践を基に、その成果を研修の中で共有し、今後の取り組みにつなげております。本大会もそのような実践に基づき研究が進められました。

本大会は、「イメージを形に」～鉛筆デッサンから自己表現まで～をテーマに、生徒一人一人が、自分の心情や考えを生き生きとイメージできる力、それを造形的に自分の表現方法で具体化できる力を育成し、自らが資質・能力の向上と自己実現を図ることができることを目指して研究を行ないました。

中学校美術では、美術の基礎的な能力を伸ばすとともに、イメージする力、「感性」を育成することはきわめて重要なことです。たとえば、生徒が対象に向き合ったとき、見ることのできる「よさや美しさ」などを感じ取るとともに、見えない部分を「想像することや対象に内在する心や精神、感情」といったものに思いを巡らし、自分が表現したいことをしっかりあらわすことができる力を育てることが、美術の創造活動の喜びを味わうことにつながり、豊かな情操を養うことになると考えます。

第5ブロックの先生方には、昨年度、実行委員会が発足して以来、各区の教育研究会を中心に研究活動及び大会の運営にご協力をいただきありがとうございます。特に各地区から発表される教育実践においては、新学習指導要領の完全実施に向けた美術科の取り組みとして大いに役立つものと考えております。

最後になりましたが、本大会開催にあたり、ご指導、ご支援をくださいました東京都教育委員会、荒川区教育委員会をはじめ、中央区、台東区、足立区の各教育委員会、各地区中学校長会、各地区教育研究会、関係機関の皆様、並びに、本日ご講演を賜ります国立西洋美術館学芸員の寺島洋子様、ご講評を賜ります東京都教育庁義務教育特別支援教育指導課の統括指導主事、岩崎治彦様に厚くお礼申し上げます。

また、会場をご提供くださいました、荒川区立第三中学校の清水隆彦校長先生をはじめ教職員の皆様には多大なご協力をいただき心より感謝申し上げます。

荒川区でのこの研究大会が本会員をはじめ美術教育に携わる方々への大きな財産となり、東京における美術の先生方のネットワークを更に広げる契機になることを期待し、有意義且つ成功裏に進みますことを心より祈念して、私のあいさつとさせていただきます。

あいさつ

第28回東京都中学校美術教育研究大会

大会実行委員長 藤崎 勝



この度、第28回東京都中学校美術教育研究大会第5ブロック大会が荒川区を会場として開催される運びとなりました。

平成21年度から新学習指導要領の移行期が始まり、完全実施へ向けて各教科・領域では内容の一部実施が進められております。美術科においても、新指導要領の趣旨を踏まえた取り組みを各校で模索しているところですが、本大会がこれからの美術教育の方向性を示し、新指導要領の完全実施へ向けた各校の取り組みに対する提案とすることができるよう念願するものです。

新学習指導要領では引き続き「生きる力」を育む教育の重要性が指摘されるとともに、基礎的・基本的な知識・技能の修得とそれを活用する能力をつけること、思考力・判断力・表現力等の育成を目指すことなどが盛り込まれ、言語活動の充実が求められています。

言語に関する能力を「読み取り、思考し、判断し、適切に表現する能力」と捉えると、この能力は正に「生きる力」の根幹となるものであることは言をまちません。読み取る対象が文章であれ図形や絵画であれ、あるいは音像や映像、顔色や雰囲気など何であれ、それらの対象に対する鋭い感覚を育み、正しく読み取り、思考・判断すること、その結果を適切に表現することは、生徒一人一人の身につけさせる必要があると考えます。

この要請を美術科の指導内容に置き換えて考え、対応していくことが私たちの大きな課題であると言えます。

この観点から新指導要領が美術科に求めていることを整理すると、次のようになります。

- ① 形的な創造活動にかかる基礎的能力の育成
- ② 美術文化への関心と生涯にわたって主体的にかかわる態度の育成
- ③ 造形活動や鑑賞活動を通して生活や社会と豊かに係わる態度を高めること
- ④ 美術文化の継承と創造への関心を高めることなど

以上を踏まえて、今研究大会のテーマを「イメージを形に ～ 鉛筆デッサンから自己表現まで」と設定しました。生徒は皆、それぞれの造形的な創造活動において自分なりのイメージを持っています。そのイメージを具体的な形として表すことが必要です。ところが、生徒一人一人の現実に立ったときに、美術の基礎的な能力が不足しているために創造的活動に消極的になってしまう生徒も見受けられます。私たちは、生徒一人一人の感性を豊かにすると共に、美術の基礎的な能力を伸ばすことが、生涯にわたって美術文化に主体的な関わりを持つ出発点の一つになると考えました。この意図が、具体的な指導場面でどの程度達成されたかにつきましては、皆さまからの評価を頂きつつ検証して参りたいと存じます。

最後になりましたが、本大会を通して、今後の美術教育の方向付けをして頂きます東京都教育庁義務教育特別支援教育指導課の統括指導主事・岩崎治彦様をはじめ、各分科会の助言者の先生方、また、美術館の立場から美術教育を捉えた貴重なご講演を頂戴いたします西洋美術館学芸員の寺島洋子様、並びに多大なご支援を頂きました東京都教育委員会、荒川区・足立区・台東区・中央区の各教育委員会、東京都中学校長会、荒川区中学校長会ほか、関係教育研究団体等の皆さまに御礼を申し上げ、ごあいさつといたします。

I 大会要項と内容

- 1 テーマ イメージを形に ～ 鉛筆デッサンから自己表現まで
- 2 開催期日 平成22年11月9日(火)
- 3 会場 荒川区立第三中学校
荒川区南千住8-10-1 TEL 03-3801-5808
- 4 主催 東京都中学校美術教育研究会
会長 大野 雅生 (西東京市立ひばりが丘中学校校長)
- 5 後援 東京都教育委員会、荒川区教育委員会、足立区教育委員会
台東区教育委員会、中央区教育委員会、東京都中学校校長会
東京都中学校教育研究会 荒川区中学校校長会
荒川区教育研究会・荒川区小学校図画工作研究部会
荒川区中学校PTA連合会
- 6 日程

11:15	11:30	12:30	13:20	14:25	15:25	16:00	16:50
受付	ワーク ショップ	昼食 展示作品 鑑賞	研究授業 1～4	研究授業 協議会 1～4	全体会 講評	記念講演	
	体育館	体育館	3階各教室	各教室	体育館	体育館	

- 7 ワークショップ及び生徒作品展示 11:30～12:30
体育館にて

- ワークショップ(美術館の教育グッズ展、教材展示)
- 第5ブロック各区の生徒作品展

- 8 公開研究授業1～4 13:20より

- 研究授業1 ジオラマを作る (学級:3年選択 会場:理科実験室)
発表者 足立区立入谷南中学校 佐久間 善紀
- 研究授業2 マンガを描こう～かおを中心に～(学級:2年D組 会場:理科教室2)
発表者 台東区立柏葉中学校 橋本 竜夫
- 研究授業3 ポップアップカードの制作 (学級:2年C組 会場:理科教室1)
発表者 荒川区立第四中学校 小林 秀樹
- 研究授業4 水彩スケッチ『私のマグカップ』(学級:1年A組 会場:美術室)
発表者 中央区立銀座中学校 小島 晴美

9 研究授業協議会 1～4 14:25 ～ 15:15

- | | | | |
|---------|--------|-----------------------------|----------|
| ■ 協議会 1 | 理科実験室 | 稲城市立稲城第二中学校校長 | 安藤 聖子 先生 |
| ■ 協議会 2 | 理科教室 2 | 墨田区立吾妻第二中学校校長 | 菊田 寛 先生 |
| ■ 協議会 3 | 理科教室 1 | 葛飾区立上平井中学校校長 | 殿村 靖廣 先生 |
| ■ 協議会 4 | 美術室 | 教育庁指導部義務教育
特別支援教育指導課指導主事 | 松永かおり 先生 |

10 全体会 15:25 ～ 16:50

- ① 開会の言葉
- ② 主催者挨拶 東京都中学校美術研究会会長
西東京市立ひばりが丘中学校校長 大野雅生
- ③ 実行委員長 第5ブロック大会実行委員長
荒川区立第七中学校校長 藤崎 勝
- ④ 来賓祝辞 東京都教育長 大原 正行 先生
荒川区教育委員会教育長 川寄 祐弘 先生
- ⑤ 来賓紹介
- ⑥ 基調提案 大会研究局長 上村 博美
- ⑦ 指導講評 教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
統括指導主事 岩崎 治彦 先生
- ⑧ 記念講演 国立西洋美術館主任研究員 寺島 洋子 先生
- ⑨ 謝 辞 大会副実行委員長 中野区立第三中学校校長 池田 浩二 先生
- ⑩ 次回大会実行委員長挨拶 町田市立薬師中学校校長 篠原やよい 先生
- ⑪ 閉会の辞

11 誌上発表者指導案展示

- | | | |
|---------|--------------|--------|
| ■発表者 1 | 荒川区立第五中学校 | 玉井 かおり |
| ■発表者 2 | 荒川区立諏訪台中学校 | 田邊 薫 |
| ■発表者 3 | 荒川区立第三中学校 | 梶田 久仁子 |
| ■発表者 4 | 中央区立佃中学校 | 横山 寿子 |
| ■発表者 5 | 中央区立日本橋中学校 | 上村 博美 |
| ■発表者 6 | 台東区立御徒町台東中学校 | 大谷 智子 |
| ■発表者 7 | 台東区立上野中学校 | 高原 都 |
| ■発表者 8 | 足立区立花保中学校 | 平岡 いづみ |
| ■発表者 9 | 足立区立第十中学校 | 鍬形 志穂 |
| ■発表者 10 | 足立区立谷中中学校 | 水上 智美 |

II 基調提案

イメージを形に～鉛筆デッサンから自己表現まで～

平成24年度からの新学習指導要領完全実施を間近に控える今、美術の基礎的・基本的な能力をのばしつつ、いかにしてイメージする力やイメージを表現する力を伸ばし、豊かな感性を培うかが、私たちが美術教育を進める上での課題の一つではないでしょうか。

一方、中学生の日常生活に目を向けると、次のような状況が浮かんできます。大人も子供も、誰もが多くの色や形などの強い刺激に囲まれて暮らし、欲するものは比較的容易に入手できる。また教室では、「絵の具の使い方を知らない」「混色ができない」「彫刻刀がうまく扱えない」「鉛筆での表現ができない」「ものの形が捉えられない」など。

このような状況下で美術教育を進めていく私たちには、どのようにしたら「自らの手でものを創り出す喜び」や「作品を生み出したいという欲求」を引き出すことができるのかということを実践的に考え、解決の方策を立てることが求められています。また年間35時間、1年生でも45時間という授業時間の中で、じっくりと指導をしたくとも余裕の持てない状況にあり、基本的な事柄の指導も難しくなっているのが美術科の現在置かれている状況ではないでしょうか。

今回の学習指導要領の改訂では「生きる力」を育む重要性を継承すると共に、基礎基本の確実な習得とそれを活用して課題を解決する力の育成を目指しています。美術科においては、こうした改訂趣旨に立って、思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の美術の働きや美術文化への関心を持ち、生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むことが求められ、小・中学校を通して、表現や鑑賞の活動の中で共通に働く資質や能力が「共通事項」として示されました。また、造形活動や鑑賞活動を通して、生活や社会と豊かに関わる態度や美術文化の継承と創造への関心を高めることが打ち出されています。

こうした内容の具体的な事項の一つとして、「A表現」の内容が「発想や構想の能力」と「創造的な技能」の二つの観点に整理されました。この二つの観点を組み合わせて指導し、絵画、彫刻、デザイン、工芸といった枠組みにとらわれずに、生徒の実態を踏まえて幅広く題材を考えさせていくことが重要視されています。更に「共通事項」の新設により、形や色彩、材料などの性質やそれらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえるなどの資質や能力を育成して、表現や鑑賞の学習の基盤とすることが示されました。また、ただ自由に表現させるのではなく、自己の心情や考え、イメージを基に自分が表現したいこと意識させ、自分の表現方法によって作品として実体化することで創造活動の喜びを実感することが必要とされています。選んだ題材の中で、どの部分で何を指導すべきか、その指導内容は発想、構想力に関わるのか、あるいは基礎的な技能に関わるのかなのか、そしてその二つをどのように関連づけ、個性的な作品へと結びつけるのかは題材選定も含め、教師の考え方や指導法により、大きく左右されてきます。

今大会では、以上のような学習指導要領の改訂点を踏まえ、[A表現]に関する指導内容を「発想、構想に関する項目」と「創造的な技能に関する項目」に明確に分類して考えてみることにしました。「日々の授業の中で教えるべき技能や知識は何か」「それを生かし、各自のイメージを表現に結びつける指導はどのようにあるべきか」ということにも重点を置いて取り組みました。具体的な授業の場面においては、①基礎的な内容を重視した授業において、いかに自己表現の可能性に結びつけるか。②自己表現を重視した授業においては、基礎的な内容をどのように踏まえながら進めていくか。以上の2点を念頭に置き、今大会のテーマ「イメージを形に～鉛筆デッサンから自己表現まで～」を設定しました。

本研究大会を通して、最も基本である授業の内容や形態という原点に立ち返り、これを丁寧に見直し、深く探ることで、教師としての指導力の向上を目指していく端緒にしたいと考えております。義務教育としての美術科のあり方を、皆さんと一緒に考えることができれば幸いです。

Ⅲ 記念講演

テーマ 美術館教育とは？—学校との連携を踏まえて

国立西洋美術館

主任研究員 寺島 洋子 先生



■ 講師紹介

東京芸術大学大学院修了。東京国立博物館を経て、1994年より国立西洋美術館に勤務。1999年より1年間、文部科学省在外研究員としてアメリカのワシントンDCのナショナル・ギャラリーおよびスミソニアン博物館にて教育プログラムの実地調査を行う。同館では、教育普及の専門研究員として幅広い来館者の学びをサポートするための教育活動に携わる。同館のコレクションに焦点をあて、多様な視点から作品を楽しむ連続プログラムFun with Collection（'95～）や「ル・コルビュジエと国立西洋美術館展（'09）」などを企画実施。

■ 講演概要

美術館と中学校、それぞれの教育の目標は究極的には同じです。しかし、そこに至る道や方法には異なるものがあります。同じ目標に向かって、お互いの利点を活かしながら美術館は学校とどのような協力ができるのでしょうか。東京都中学校美術研究会との連携研修にも触れながら、美術館が果たすべき教育の役割について考えます。

■ 国立西洋美術館

国立西洋美術館は、1959年フランス政府から寄贈返還された松方コレクション（印象派の絵画およびロダンの彫刻を中心とする近代のフランス美術コレクション）を核に設立されました。爾来、日本で唯一の西洋美術専門の美術館として、その歴史を概観できるコレクションの充実を目指し奮闘しています。

現在では、14世紀から20世紀初頭までの作品およそ90～100点を本館と新館の2つの建物で常設展示しています。また、地下の企画展示館では、年3回の特別展（うち、1



回は版画・素描が中心）によって、海外作品の紹介に努めています。常設展を利用したスクール・ギャラリー・トーク、特別展のジュニアパスポート、特別展ごとにかかれる先生のための鑑賞プログラムなど、児童・生徒・教員を対象としたプログラムも実施しています。常設展示は小・中・高校生は無料。さらに第2・第4土曜日は無料観覧日です。学校で、あるいは個人で是非ご利用ください。

IV 研究授業指導案

研究授業1

研究主題（題材）	ジオラマを作る	領域	表現
提案者	足立区立入谷南中学校	佐久間善紀	
研究の視点	①「マイ ワールド」を表現する ②材料、素材の特性を生かし、工夫し「自然の情景」を表現する		
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>日本の文化の代表的なものの中に「盆栽」がある。気の遠くなるような時間と手間ひまをかけ、愛情を注ぎ、自然の素材を使い小さな鉢の中に自分の小宇宙を創造していく。その盆栽ほどには時間もお金も掛けず、比較的手軽に制作できるのが「箱庭」や今回の研究主題である「ジオラマ」である。また近年、精神医療に「箱庭療法」というものもあり、人の深層心理が現れやすく、「癒し（いやし）」の効果もあるという。「ジオラマ」も鉄道マニアやプラモデル模型マニアの間で趣味として広がりを見せているようだ。自分の世界のイメージを広げ表現することによって心が開き、癒されるのかも知れない。</p> <p>その辺の難しい分析は精神医療の専門家に詳しく分析してもらおうとして、いずれにしろ「盆栽」も「箱庭」も「ジオラマ」も心の癒しになることは確かなようである。そこで、もしそうであるならば、ぜひ生徒達にも「ジオラマ」を制作させたい。自分の世界を表現することで心の中を解き放ち、心を癒すことにつながるのではないか。</p> <p>制作素材は限定されているが、その素材からイメージするテーマを自由に決めさせ、素材に工夫を加え、心おもむくままに創造された作品は、子供達自身の心の表現となり、作品に対する愛着と、物を作り出す喜びにあふれている。また、その作品を見る側の我々も何か心とらぎホッとさせられてしまう不思議な感覚におちいってしまう。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①与えられた制作素材から、自然に囲まれた「自分の世界」をイメージし、その世界と人とのかわりを表現する。 ②「自分の世界」を表現するために、制作素材の性質、特性を生かし、いかに加工し組み合わせ、構成していくか工夫する。 ③作品の構成を考える時、平面的にならないように工夫する。一方向からだけ見るのではなく、前後、左右、上下など多角的な方向から見て変化をつける。 ④表現するための制作工程、作業手順などを考えさせる。 ⑤自分の漠然とした世界のイメージを具体的に立体で表現し創造することの楽しさと、ジオラマ独特の遊び心やユーモアの表現の楽しさを味わう。 ⑥他の生徒の作品を鑑賞し、自分以外の人の独特な表現や様々な世界観を味わい、一人一人の表現の多様性に気付かせるとともに、お互いの良さを認め合う広い心を養う。 <p>〈学習の展開〉</p>			
導入	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主題の確認。各自のテーマを考える。 自然に囲まれた自分の世界と人との関わりをどう表現するか考える。 2. 色鉛筆を使って、自分のイメージをスケッチする。 3. 自分のイメージを表現するのにふさわしい制作素材を選ぶ。制作素材はある程度限られているので、素材に合わせて、自分のイメージを一部変更することも検討する。 4. ジオラマの土台を制作するための手順を確認する。 		

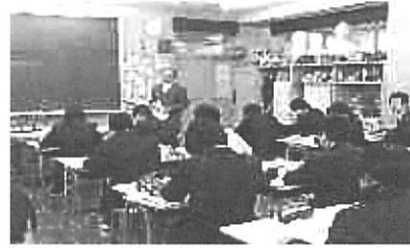
<p>展 開</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地形のイメージに合わせて、土台となる発泡スチロールをベニヤ板に貼る。あまり細部にこだわらずおおざっぱに貼る。 2. 発泡スチロールの上に紙粘土を貼り付け、ジオラマの基礎となる土台の地面を制作する。 3. 紙粘土が乾燥したら土台の地面の色を水彩絵の具で着色する。 4. 紙粘土と絵の具が乾燥したら、水で薄く溶いた木工ボンドを土台の地面になる部分全体に塗る。 5. 木工ボンドが乾かないうちに、自分のイメージの土や砂をかける。 <ol style="list-style-type: none"> (1)自分が大地を創造する神様になったつもりで作る。 (2)自分のイメージに合わせた土の粒の大きさにする。 <ol style="list-style-type: none"> ①茶漉しを使ってふるいにかける⇒細かい土 ②手でつまみながらかける⇒荒い土 (3)土が全体にかかっている、ボンドと直に接していない土は浮いているので、作品を立てて、浮いている土を払い落とす。 (4)一回目の土が乾いたら、さらに水で溶いたボンドを塗り、二回目の土をかけていく <ol style="list-style-type: none"> ①ある程度の土の層が出来上がるまでこの作業を何度も繰り返す 6. 着色した紙粘土が土に隠れて見えなくなったら、川底の石、草、木、家、橋、など自分のイメージする情景に必要なものを作る。 7. 土台の地面に草、石、木、橋…など情景を演出する物をボンドで貼る。木は地面にキリなどで穴を開けて差し込む。 8. 水（川、海、池など）の表現は「つや出しニス」にマーブリングの青インクを一滴混ぜて青くする。 <ol style="list-style-type: none"> (1)川、池などの表現では青くせず、直接「つや出しニス」を塗っても良い。 (2)一気に水の量を増やそうとしても流れ出てしまうので、筆で塗りながら（塗っては乾燥、塗っては乾燥を繰り返す）少しずつ水かさを増やしていく。 (3)「青い海」を表現するときは、あらかじめ紙粘土の状態のときに絵の具で水色に塗っておき、その上に青く染めた「つや出しニス」を塗る。 9. 必要に応じて、ジオラマの登場人物や動物を紙粘土で作る。（市販のミニチュアの人物、動物も可） 10. 登場人物や動物などを着色し、自分のイメージにあわせてジオラマに配置したら完成。
<p>まとめ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の作品やほかの生徒の作品を鑑賞し、自分以外の人の特徴的な表現や様々な世界観を味わい、一人一人の表現の個性、多様性に気付かせ、お互いの良さを認め合う。
<p>〈評 価〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①与えられた制作素材から、自然に囲まれた「自分の世界」をイメージし、その世界と人とのかわりを表現できたか。 ②制作素材の性質、特性を生かしながら加工し組み合わせ、構成していくことができたか。 ③作品の構成が平面的にならないように工夫できたか。一方向からだけ見るのではなく、前後、左右、上下など多角的な方向から見て変化をつけることができたか。 ④表現するための制作工程、作業手順などが工夫できたか。 ⑤自分の漠然とした世界のイメージを具体的に立体で自由に表現し創造することの楽しさと、ジオラマ独特の遊び心やユーモアの表現の楽しさを感じ取ることができたか。 ⑥自分以外の人の特徴的な表現や様々な世界観を味わい、一人ひとりの表現の多様性に気づき、お互いの良さを認め合うことができたか。 	

研究授業2

研究主題（題材）		領域	表現
マンガを描こう ～かおを中心に～			
提案者 台東区立柏葉中学校 橋本 竜夫			
研究の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・描く楽しみ。 ・マンガは生徒にとって身近な存在である。そのマンガを描くことによって、表現するおもしろさ。 			
〈題材設定の理由〉 今回の東京都中学校美術教育研究大会のテーマは、「イメージをかたちに～鉛筆デッサンから自己表現まで」とある。このテーマを踏まえ、研究授業の題材を考えたときに、「イメージをかたちに」する手段として、鉛筆などで行うことができ、最もテーマにあった題材は何かと考えたところ、マンガ的な表現方法の学習はどうかと考えた。そこで、社会生活において、さまざまな感情表現を読みとることができなくなっている今の生徒たちの実態も合わせて考え、顔の表情の作り方を中心に教材を作ることにした。その教材で学習することにより、表現方法の道筋がつかめるようにした。今回の授業を体験することを通して、美術的な活動を体験する中から、美術とは、自己表現のひとつであるということを理解してほしい。今回鉛筆で行う活動を通して、個々の生徒の個性、そのよさを知り、認め、そのことを土台として、人間関係を築いてほしい。そして、前向きに取り組む力の向上につなげていく。 美術の評価や授業内容は、感覚的な部分もあるので、わかりにくい面がある。しかし、いろいろな作品を鑑賞したり、作品を数多く描いたりする中で、何をすべきなのか、何がよいのかが分かってくる。今回の授業では、描いたりする事の段階をふんだ作業、記号などの特別な知識、鉛筆などの技術的なこと等も身につけて欲しいと考え、本題材を設定した。 〈指導のねらい〉 マンガは、形がわかりやすく、感情を表す記号としてある約束事ができていたり、私たちの生活に染み渡ったりと、それを見れば誰でもがわかる表現が随所にある。本時の描画活動を通して、自分の描いた作品、他人の作品のよいところ、やるべき事、直すべき所が分かり、また、どうすればうまく表現したことが相手に伝えることができるか、さらには伝えるための技術はどうしたらよいかなどなど、表現する手立てとして何かを見つける事ができると良いと考える。自分なりに、相手にわかってもらうように、うまいへただけでない表現力をつけることにつなげてほしい。今回の授業で学んだことを自己表現のひとつと考え、コミュニケーションのひとつである手紙やイラスト作成などでも応用して欲しいと考えている。 〈学習の展開〉			
時間	主な学習活動	指導上の留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつ。 ○本時の説明。 ○「マンガを描こう」の冊子の使い方の説明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中できるようにする。 ・冊子の内容を考えさせる。 	



今回使用した冊子の1部



授業の様子

展開

- 冊子を使って説明
- (1)冊子より、描画活動を行う。
- (2)基本の「き」より、描画活動を行う。
- (3)顔について、描き方の説明、自分なりのアイデアをじっくりと考える。

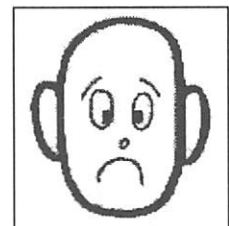
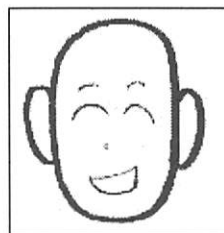
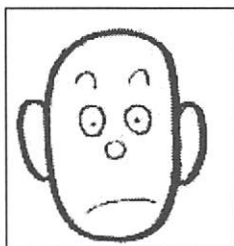
- ・何を描くかを自分で判断させ、集中して描かせる。
- ・机間指導をして、アドバイスをを行う。
- ・進度、考え(アイディア)の深さを見て、アドバイスを個々に行う。
- ・考えた内容が、絵としてまとめ、他人に伝わる表現ができるまで描かせる。
- ・冊子の設問に沿って描画活動を行わせる。

まとめ

- 感想を書く欄に、授業内容、感想、自己評価を記入する。
- ・今日の授業内容を振り返って、感想を記入する。
- ・今日の感想を自分の言葉で記入できるように指導する。
- 次時の説明を聞く。
- ・次時の学習に必要な準備物などを伝える。

〈評価〉

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力
<ul style="list-style-type: none"> ①活動に興味を持つ。 ②意欲的に製作に取り組む。 ③自分から各テーマについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①目的に沿って描けるようになる。 ②自分の思い描いたことが描けるようになる。 ③簡単な絵を何個も描くことによって、描写力、表現力を高める。 ④感想を書くことを通して、自分の思いを絵だけでなく言葉にしてみる。



上左より；見本のかたち、生徒の作品笑う、怒る、悲しむ。

研究授業3

研究主題（題材）	ポップアップカードの制作	領域	表現
提案者	荒川区立第四中学校	小林 秀 樹	
研究の視点	言葉の意味を形にする（「感謝」をテーマに）		
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>言葉からイメージして考えたことや感じたものを、何か具体的な形に置き換えて見せるという作業は、美術の基本となるものである。</p> <p>ポップアップカードは紙という身近な素材を使うので、扱いやすく具体的な形を作りやすい。ポップアップする仕組みを考えるのは難しいが、単純な仕組みでも少し手を加えることでユニークな作品を作ることができる利点もある。</p> <p>紙に動きを与える面白さと、言葉や気持ちを伝えるカードという具体的な目的を持つものを組み合わせ、自己表現する楽しさを感じられるようにと考え、本題材を設定した。</p>			
<p>〈指導のねらい〉</p> <p>目的に合わせたモチーフを選び、テーマにふさわしいポップアップカードを作る。そのカードを送る相手の人に喜んでもらえる作品づくりを通して、ものづくりには想いや気持ちを込めることが大切だと知らせる。また紙を開くことで動くという構造の理解、さらに面白くするためのアイデアと工夫の必要性に気付かせる。</p>			
<p>〈学習の展開〉</p> <p>全3時間 用意するもの：色画用紙、ケント紙（カードサイズに切ったもの）、電子黒板、ハサミ、カッター、カッターマット、両面テープ、のり、定規、色鉛筆</p>			
学習の流れ	主な学習活動	指導上の留意点	
導入 30分	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を見ながらポップアップカードの説明を聞く。 構造をより理解のためにサンプルを制作する。 「感謝の気持ち」をテーマに、ふさわしい絵や色の組み合わせを考え、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートや電子黒板でのプレゼンを活用する。 遠近感を出すための仕組みを実物を使って制作してみる。 紙は折ったクセがつくと元に戻せないので、正確に作業させる。折り目には定規を当てさせる。 ワークシートには具体的な言葉や絵を書くようにさせる。 	
展開1 20分	<ul style="list-style-type: none"> 近くの物、遠くの物など2つ以上の要素を使って考える。 必要な部分の制作をする。 切り絵の要素も入れる。 イラスト集などを参考にしてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ハサミ、カッターの扱い方への注意。 「感謝の気持ち」から考えられる配色を心がけさせる。 シンプルな物の良さもあるが、そのカードをもらった人がうれしくなるように、にぎやかなものにさせる。 遠近感を活かす構図を考えさせる。 	

<p>展開2 (本時) 50分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回のふり返りをし、生徒の制作途中の作品を電子黒板で見る。 ・作ったパーツを組み立てて、動作の確認をする。 ・いろんな紙を使って飾りつける。レースやシールなどを貼ってもよい。紙を台紙に貼り、完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニターに注目させ、飾り方や作業の流れを再確認させる。 ・たたんだときに紙が曲がったりせず、まとまるように工夫させる。 ・のりや両面テープのはみ出しが無いように注意させる。(のりのはみ出しはティッシュなどで拭き取る) ・ポップアップカードを開いたときにメッセージがちゃんと読める向きに合わせさせ、宛名を書かせる。
<p>まとめ 50分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の作品について感想を書く。 ・机の上に置かれた作品を鑑賞してまわる。 ・ワークシートに鑑賞した感想を書き発表する。 	

〈評価の観点〉

美術への関心・意欲・態度

ありがとうの言葉へのイメージを大切に、表現することへの関心を持ち、制作する喜びを味わい意欲的に取り組むことができる。

発想や構想の能力

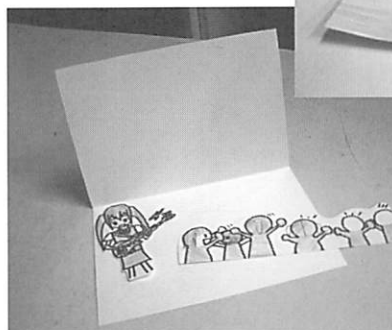
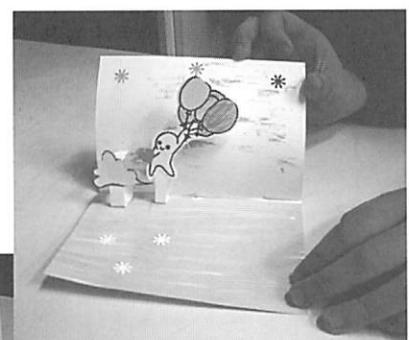
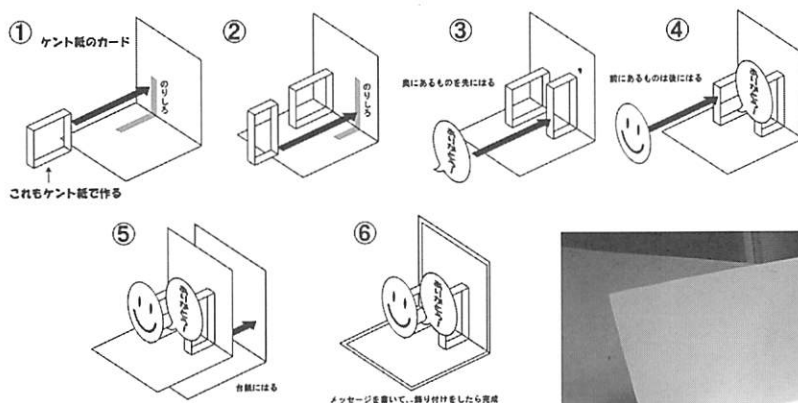
ポップアップする動きや物の遠近感を考え、工夫して表現することができる。

創造的な技能

言葉から感じるイメージを、目的にあった仕掛けや色、形で構成することができる。


鑑賞の能力

自他の作品のよさに気づくことができる。



研究授業4

研究主題（題材）		水彩スケッチ『私のマグカップ』	領域	表現
提案者		中央区立銀座中学校	小島晴美	
研究の視点		スケッチの楽しみ		
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>スケッチは、形の取り方や絵の具の使い方の基礎基本を身につけると共に、対象を見つめ感じ取った形や色彩の表現の中に自分らしさを見いだすことができる題材である。</p> <p>スケッチには多様な形態があるが、本題材では耐水性ペンと透明水彩絵の具を使用した。耐水性ペンでの線書きは彩色した後も輪郭線が生き、彩色の表現の工夫がしやすいと考えた。</p> <p>身近な対象を短時間でスケッチすることでスケッチに親しみ、気負わずに描く楽しさを味わわせるため本題材を設定した。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象をよく観察する。 ・対象の特徴をとらえながら、短時間で形を線で描く。 ・透明水彩絵の具の特性を理解する。 ・対象からうける印象を大切にし、透明水彩絵の具の特性を生かして彩色する。 ・相互鑑賞をとおして、自他の作品のよさや特色に気づき、スケッチをする楽しさを味わう。 <p>〈学習の展開〉全4時間（本時：第3時）</p>				
学習の流れ		主な学習活動	指導上の留意点	
第一時	導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチには鉛筆、コンテ、ペン、水彩絵の具など様々な画材で描く表現方法があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチは表現方法が様々あることを理解させる。 	
	展開① 45分	<ul style="list-style-type: none"> ・目の高さによって円の見え方が違うことを理解する。 ・画用紙にマグカップの形を鉛筆で下書きをする。 ・耐水性ペンで線書きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マグカップを手に取り、実際に上下して円の見え方を確認させる。 ・対象の大きさと円の見え方に気をつけさせる。 ・取っ手の形や付き方もよく観察させる。 ・絵柄や模様も描くが、細かいものはこだわりすぎずに雰囲気伝わる程度でよいことをアドバイスする。 ・ペンで描く時も対象をよく観察させる。 	
第二時	展開② 50分	<ul style="list-style-type: none"> ・透明水彩絵の具の特性を理解する。 ・パレットや筆洗の使い方を理解する。 ・ワークシートに透明水彩絵の具を使って、ぼかし、重色、混色を試す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵の具には透明と不透明のものがあることとその違いを理解させる。 ・透明水彩絵の具は数名で1つ使用させる。 ・白と黒を除いた色をパレットに出す。 ・溶く水の量に気をつけさせる。 ・黒は混色で作らせる。 	

<p>第三時 本時</p>	<p>展開③ 50分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ペンで線書きしたマグカップに彩色をする。 	<ul style="list-style-type: none"> マグカップから感じる色をぼかし、重色、混色で表現させる。 溶く水の量に気をつけさせ、はみ出したりにじんだりしても表現としてはよいことを理解させる。 水分が多すぎる場合には布やティッシュで吸い取らせる。 マグカップや台面に陰影をつけさせる。その際に黒は使わないで工夫させる。
<p>第四時</p>	<p>まとめ 50分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のスケッチについて苦労した点や工夫した点をあげて感想を書く。 友達の作品を鑑賞する。 鑑賞した感想やスケッチをとおして気づいたことを文章にまとめ、発表する。 	

〈評価〉

【美術への関心・意欲・態度】

- 描こうとする対象をよく観察できる。
- 対象から感じたことを表現しようと意欲的に制作することができる。

【発想や構想の能力】

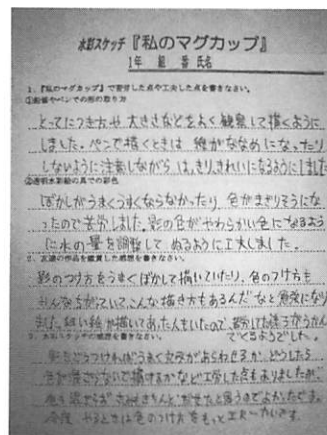
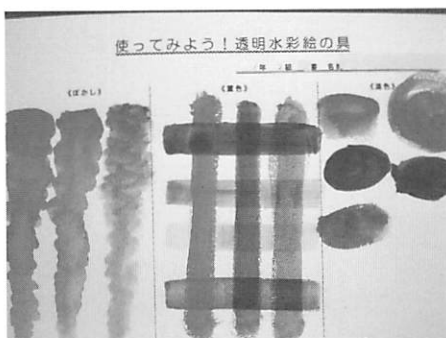
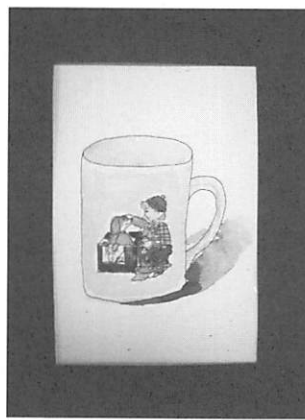
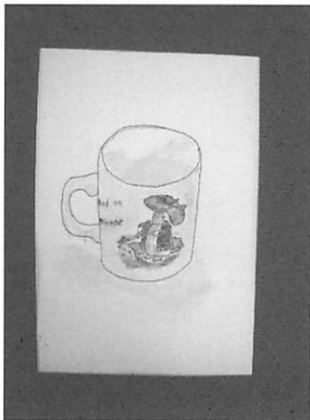
- 対象の特徴をとらえて感じたことを表現するために構想を練ることができる。

【創造的な技能】

- 目の高さによる見え方の違いをとらえ、対象を描くことができる。
- 透明水彩絵の具の特性を理解し、その効果を生かした表現の工夫ができる。

【鑑賞の能力】


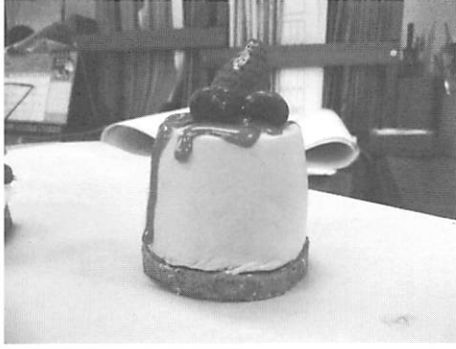
- 相互鑑賞によって自分や友達の作品のよさや特色に気づき、自分の表現の持ち味を知ることができる。




V 誌上発表指導案


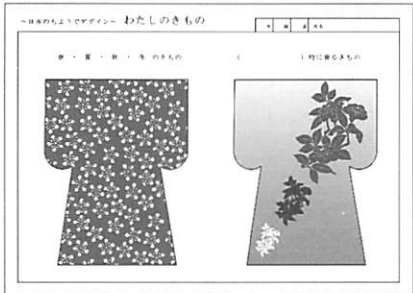
誌上発表1

研究主題	塑造 『〇〇へ贈るケーキを作る』	領域	表現
提案者	荒川区立第五中学校	玉井	かおり
研究の視点	形と色とおいしさの追求		
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>立体を作ること苦手としている生徒が多くいるため、形や色を意識する題材は日常の中で見る機会の多い、イメージしやすいものが良いと考えた。ケーキは授業内で本物を観察することは難しいが、雑誌や本によってより印象的に撮影されているものが多く、生徒にとっても興味を持ちやすいものである。</p> <p>生徒が様々な粘土や道具を使用することによって、用途に応じた材料や道具を選ぶ力を身につけるとともに、より形や色の美しさを追求しやすいものであると考え、この題材を設定した。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 立体の表現や形の美しさに興味を持たせ、作ることの喜びを味わわせる。 ○ 対象をよく観察させ、完成をイメージして構想を練る力を身につけさせる。 ○ 用途に応じた材料や道具を選び、質感の違いを表現する力を身につけさせる。 ○ 互いの表現の違いやそのよさを感じ取る力を身につけさせる。 <p>〈学習の展開〉（全9時間）</p> <p>材料：紙粘土、ホイップ粘土、デコソース、アクリル絵の具（個人）、ケーキ用シート、カップ 道具：粘土へら、粘土板、パレット（マカロン用）、ホイップ絞り口、ビニール袋</p>			
	学習内容	指導上の留意点・評価	
導入 2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立体と平面の違いについて理解し、制作のイメージを持つ。 ・ 制作の流れを理解する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ワークシートに記入する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や本を参考にモチーフ決定する。 ・ 簡単なスケッチと制作計画を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平面と立体の違いについて説明する。 ・ 作品に使用する材料・道具を説明し、特性や用途を説明する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ モチーフの写真をいくつか用意し、生徒が能力に応じて選べるようにする。 ・ 制作計画は画用紙のワークシートを使用させる。 生徒が構想を練りやすいように、見本や実演を見せる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関心・意欲・態度（行動観察・ワークシート）</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発想や構想の能力（ワークシート）</p>	
展開 6時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケーキの素材別に制作する。 ・ 素材ごとに写真の色をよく観察しながら彩色する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が作成した制作計画とモチーフの写真を毎時間用意する。 ・ 生徒の制作意図にあった表現をアドバイスし手本を見せるようにする ・ 色をよく観察させ、より実物に近い色になるようアドバイスを行う。 	

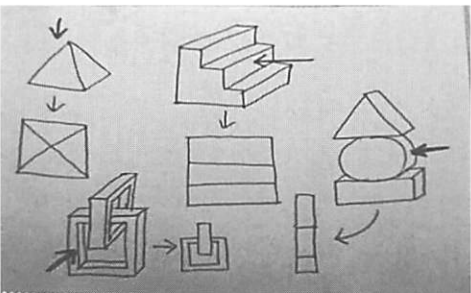
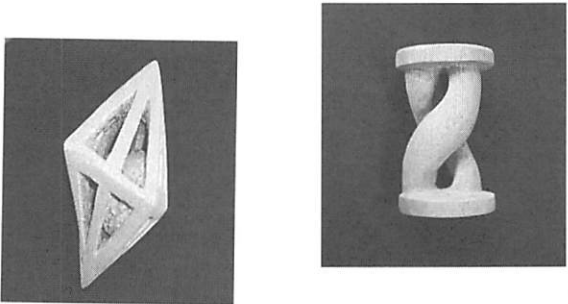
<p>展開 6時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 素材を組み立て、ホイップ粘土やリキッド粘土を接着に使用しながらケーキの形を作る。 組み立てたケーキの全体を見て、もう一度彩色し作品の統一感を出す。 果物やゼラチン質のところなど、ニスの効果を考えながら仕上げる。 ケーキに添えるカードを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 素材同士が離れることがないように、接着の部分に注意するように説明を行う。 全体に色のまとまりがでるように観察する時間を設ける。 カードの色を選べるように準備する。 <p>関心・意欲・態度 (行動観察・作品)</p> <p>発想や構想の能力 創造的な技能 (作品)</p> 
<p>まとめ 1時間</p>	<p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の作品、友達の作品を鑑賞し、自己評価プリントを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> お互いの作品を見せ合えるように班の形に机を移動する。 自己評価にはワークシートを記入する。 <p>関心・意欲・態度 (行動観察・ワークシート)</p> <p>鑑賞の能力 (ワークシート)</p>
<p>〈評価〉</p> <p>関心・意欲・態度 立体の表現や形の美しさに関心を深め、制作の楽しさを味わい、主体的に取り組み自己実現の喜びを味わうことができる。</p> <p>発想や構想の能力 対象の形をよく観察し想像力を働かせて構想を練ることができる。</p> <p>創造的な技能 用途に応じた材料、道具を選択し、対象の質感を考え工夫しながら形を作ることができる。</p> <p>鑑賞の能力 完成する喜びや達成感を味わうとともに、互いの作品を鑑賞し、そのよさや表現の工夫を感じ取ることができる。</p>		

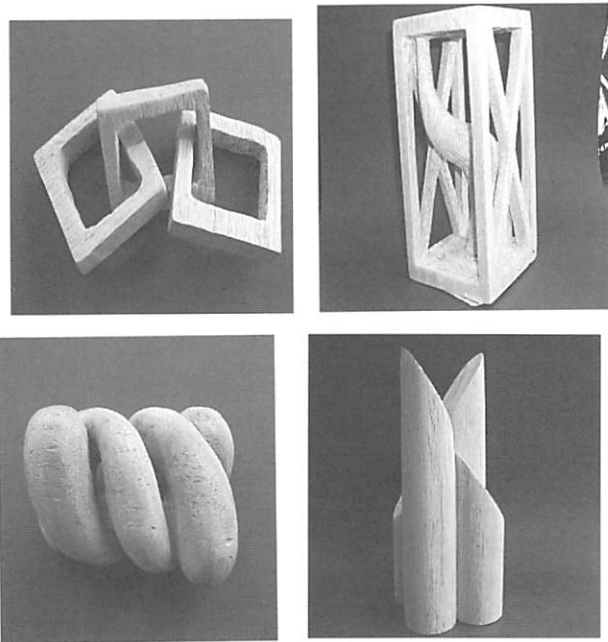
誌上発表2

研究主題（題材） 日本（江戸）の文様でデザインしよう！～わたしのきもの	領域	鑑賞 表現（デザイン）
提案者 荒川区立諏訪台中学校 田邊 薫		
研究の視点 日本の伝統的な美やデザインを知り、それを生かして自分の考え（発想）を表現する		
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>日本の風土や習慣につちかわれてきた文化は、今日のわたしたちの感性やアイデンティティの確立に大きく影響するものである。今回の題材では、日本の「衣」「文様」に着目し、日本の文化や伝統を取り入れた表現について学ぶとともに、そのルールや視点を踏まえながら、一人一人の感性や考えたことを自由に広げる制作活動を行いたいと考えた。制作活動では限られた時間ということ踏まえ、映像メディアを利用し、その活用技術も身に付けさせる。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 制作に関心をもち、手順を理解して楽しく制作に取り組むことができる。 【美術への関心・意欲・態度】 ○ 「日本の文様」の鑑賞と制作を通して、自分なりに感じ、考えたことを表現できる。 【発想や構想の能力】 ○ 映像メディアを活用し、イメージを広げて制作することができる。 【創造的な技能】 ○ 美術作品についてその思いや創造力を感じ取り、自分なりの見方や感じ方を深め、一人一人の感じ方の違いに思いをめぐらせ、それぞれを尊重することができる。 【鑑賞の能力】 <p>〈学習の展開〉 3時間扱い</p>		
	主な学習活動	指導上の留意点
導入	<p>○日本の代表的な文様の由来や意味を知り、興味をもつ。</p> <div style="text-align: center;">  <p>菊</p> </div>	<p>○日本の文様と西洋の文様の違いを、プリントと掛図※を用いて説明する。 ※菱川師宣「見返り美人図」 モーリス・カンタン・ド・ラ・トゥール「ポンパドゥール夫人」</p> <p>○制作の進め方を示す。</p>
展開	<p>○美の壺「江戸の文様」のDVDを鑑賞し、鑑賞シートに記入する。</p>	<p>○ポイントを記入しながら鑑賞できるプリントを用意し、鑑賞後に、全体で答え合わせを行う。</p> <p>○実際に小紋の袴をみせる。</p>

<p>展開</p>	<p>○コーレルドローを使った制作手順について知る (きものの図版上に、伝統文様の素材を選び、コンピューター上で組み合わせて色彩調整・加工→プリントアウト→題名をつける)</p>  <p>○プロジェクターで作業の見本を見て、それに続いて作業を行う</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 使う文様を決め、きものの型の中で自分なりに組み合わせる ② 色や細部を工夫する <p>○作業が終わった人からプリントアウトする</p>  <p>○作品に題名をつける</p>	<p>○完成のイメージや工夫できるポイントなどを、コーレルドローの機能説明にあわせて紹介する</p> <p>○一連の作業をプリントにして配布する</p> <p>○制作途中に出てきた疑問点や、細かい指示についてはPC画面上で説明する。</p> <p>○机間指導しながら助言する。「わたしのきもの」がどんな場面で着られるものなのか、や、色や文様の選択や構図の目的を考えさせる。</p> <p>○プリントアウトされた作品は、黒板に展示していく</p>
<p>まとめ</p>	<p>○完成作品鑑賞</p> <p>○まとめ (感想をプリントに記入)</p>	<p>○クラス全員の作品を展示し、何人かに感想を述べさせ、講評する。</p> <p>○プリントの記入状況を確認する。</p>
<p>用意・準備</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 材料：紙 (プリント用) ② 道具：(鑑賞) DVD、プロジェクター、掛図、プリント (制作) PC、ドローソフト (コーレルドロー)、文様データ、プリンター、プリント <p>〈評価〉</p> <p>○制作に関心をもち、手順を理解して楽しく制作に取り組み、完成させることができたか。 【美術への関心・意欲・態度】</p> <p>○「日本の文様」の鑑賞と制作を通して、その視点や特徴を踏まえ、自分なりに感じ、考えたことを表現することができたか。 【発想や構想の能力】</p> <p>○映像メディアを活用し、色彩や構図などに留意し、自分のイメージを表現することができたか。 【創造的な技能】</p> <p>○「日本の文様」についてその思いや創造力を感じ取り、自分なりの見方や感じ方を深め、「わたしのきもの」で表現された一人一人の感じ方の違いに思いをめぐらせ、それぞれを尊重することができたか。 【鑑賞の能力】</p>		

誌上発表3

研究主題（題材） バルサを使ってイメージを形に	領域	表現（絵・彫刻）
提案者 荒川区立第三中学校 梶田久仁子		
研究の視点 発想と表現		
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>今の中学生の生活は、多くのメディアから視覚的な情報が溢れるほど入ってくる。しかし、その情報を自分のものとして描いたり、形にすることなどはほとんどない。漠然と存在するイメージを立体として表現し、イメージを具体的な形に表す作業を体験させたい。そこから「感性と創造性」のつながりを育てたい。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イメージをふくらませ、スケッチとして表現させる。 2. 材料の特徴を生かし工夫して表現することに興味を持たせる。 3. 自分の表したいイメージを設計図に描き、用具を選び、創意工夫して表現させる。 4. 完成した作品の発表を通して、発想の豊かさや表現の工夫を感じ取らせる。 <p>〈学習の展開〉</p>		
導 入	<p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を聞いて、そこからイメージする形を紙に描いてみる。 (フリーハンド)  <ul style="list-style-type: none"> ・バルサ材を用いて抽象立体を作ることを知る。 ・自分のイメージしたことばを描いてみる。多くのアイデアスケッチから立体にするものを1つ選ぶ。 ・設計図を書く。 (定規・コンパス・ワークシート) 	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な「物」にならないようにできるだけ多くの形容詞や動詞を選ぶ。また、実在するもの（具象）は描かないように指示する。 ・材質の特徴や、強度などを考えてデザインを考えるさせる。 ・参考作品は曲線的・直線的・箱形など難度の違うものを用意する。  <ul style="list-style-type: none"> ・完成予想図から設計図を描く練習をする。 ・設計図の点検から、立体を理解できているかを確認し、3方向からの図が描けているか、理解しているかを観察する。

<p>展 開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設計図を完成し、彫りだす。 バルサ材に設計図を写す。 ・設計図を見ながら彫りの制作を進める。 カッターナイフ・彫刻刀などを使い分けて作業する。 ・彫りが終わったら、ヤスリで仕上げをする。 (木工用ヤスリと紙ヤスリを使って仕上げ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボン紙を使ってもよい。 ・手前のものと奥のもの、奥行き、ねじれの位置にあるものに注意して写すようにさせる。 (平面から立体に移ることで理解度を再確認する。) ・設計図や、完成予想図をいつも見ながら、イメージを崩さない、変えさせないようにする。 ・木目の流れに注意させ、制作手順を考えるようにさせる。(カッターナイフと彫刻刀の使い分けをできるように) ・用具の使い方や作業手順を説明し、制作意欲を高める。(やすりの種類を幅広く準備し、目的に合ったものを選ばせる)
<p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設計図と、作品をもとに、作品説明を書く。 「題名・説明・工夫苦労した点」を文章でまとめる。 ・お互いの作品を鑑賞し、カードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージや表現をことばにしてカードに記入させる。 ・自分のものと違う発想や表現に気づき、カードに記入させる。

用具・準備

①材料：バルサ材 8×8×15cm

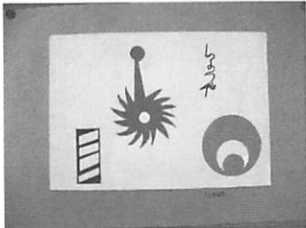
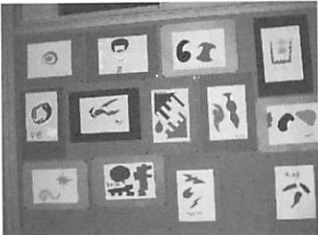
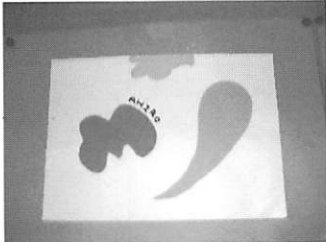
②道具：カッターナイフ・彫刻刀・木工ヤスリ・紙ヤスリ・カーボン紙
ワークシート・鑑賞カード

〈評 価〉

1. イメージをふくらませ、スケッチとして表現することができた。
2. 材料の特徴を生かし工夫して表現することに興味を持つことができた。
3. 自分の表したいイメージを設計図に描き、用具を選び、創意工夫して表現することができた。
4. 完成した作品の発表を通して、発想の豊かさや表現の工夫を感じ取ることができた。

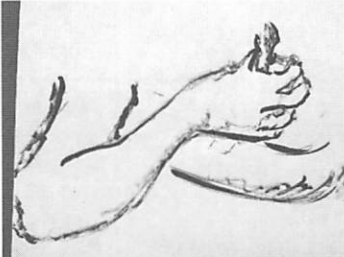
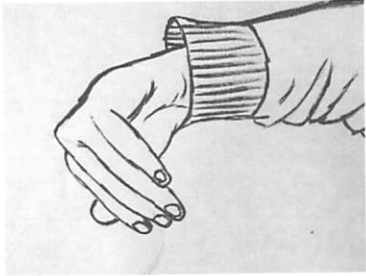


誌上発表4

研究主題（題材） 3つのかたちをぴたっと塗る	領域	表現・鑑賞
提案者 中央区立 佃中学校 横山 寿子		
研究の視点 ・基礎的な技法の習得 ・色とかたちの配置により感性を磨く		
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>絵の具の使い方は表現に応じてあくまで自由なものであるが、固有の色みをはっきり見せたり、かたちを際立たせるためには、それなりの塗り方がある。ムラ無く、はみ出さないようにぴたっと塗る方法である。私はこれを「ぴたっとぬり」と名付け、ポスター制作や平面構成を行う前段階の基礎的な技法と位置づけ、一年生の一学期に教えてきた。その中で同時に、「どのかたちをどんな色でどこに配すればおさまりがよいか」、と思いを巡らせることができないものかと考えた。</p> <p>造形活動の三要素（材料・行為・想い）に重ねるならば、「ぴたっとぬり」という材料と行為を習得しながら、目に見えない「想い」の領域を見えるものに変えること、すなわち自己表現に繋げていく。</p> <p>生徒たちは取りかかる際、あくまで色塗りの練習のためのワクとして、3つのかたちと配置を決める。従ってごく気軽に「こんな感じが好きだから」という程度で決めていく。サインはできてきた画面に合わせた色と書体で、ちょうど良いと思うところに書き入れればよい。初めの段階からじっくり考えて決めさせることはあえてしない。（その理由は、じっくり考えることが得意でない生徒にもできる作業であることを強調したいからである。）</p> <p>私がとくに大切だと考えるのは、できてきた作品の相互鑑賞である。ほとんど偶然に近いような気軽さで描いたものが、結果としてどんな「感じ」になっていくのか、お互いの作品を共有しながら、かたちと色と配置の工夫により、画面にさまざまな表情や独自の世界を創り出せるのだということに気付かせたいのである。</p> <p>以上のように、基礎的な内容を重視しつつ、自己表現の可能性に結びつくような授業展開案として、本題材を設定した。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵の具をムラなくはみ出さないように塗るという基礎的な技法を身につける。 ・色とかたちの構成次第で様々な「感じ」を表現できることや自分がどんな「感じ」がすきなのかを考えることで、美的感性を磨き、自己表現への関心を深める。 <p>〈学習の展開〉（全3時間）</p> <p>第一時 ① 3つのかたちと配置を考え、配色を決め、下書きをする ② アクリルガッシュ絵の具を使って色をぴたっと塗る方法を学び、下書きのかたちをはみ出さないように塗る</p> <p>第二時 ① サインと画面にあった色の画用紙を選び、的確な位地に貼り付ける ② できあがった人から、黒板にマグネットで掲示する</p> <p>第三時 ① 全作品を掲示して相互鑑賞を行う</p> <div data-bbox="1031 1816 1400 2092" data-label="Image"> </div>		

<p>導入 展開 (第一時)</p>	<p>① 教師による条件の説明 ・抽象形3つ、1つの閉じたかたちは一色で</p> <p>② ぴたっと塗りする方法を書画カメラにて説明 ・絵の具は、水は少なめ ・パレットで充分混ぜる ・筆を使い分ける(平筆で広く面相筆で細かく)</p> <p>③ 生徒は構想を決め制作を始める</p>	<p>評価項目 ・説明をよく聞き条件にあった構想ができたか (観点①②) ・説明をよく聞き、ムラなくはみ出さないように塗ることができたか (観点③)</p>
<p>展開 (第二時)</p>	<p>① 修正の方法の説明(上から塗り直す/白で修正)</p> <p>② サインを画面にあった描き方と色で描き込む ・姓、名は全部でも片方でも自由 ・平仮名、漢字、アルファベット、書体自由</p> <p>③ デザインにあった色の画用紙を選ぶ ・教室後方に20色ほどの八つ切り色画用紙を用意しておき、各自に選ばせる</p> <p>④ 画用紙に貼り付ける</p>	<p>評価項目 ・説明をよく聞き条件にあった制作活動ができたか (観点①②) ・できあがった画面に合わせて、サインの書体、色、配置を決め、最後まで完成できたか (観点①②③)</p>
<p>まとめ (第三時)</p>	<p>① 相互鑑賞を行い、意見を述べあう</p> <p>② 他の人の意見を聞いたあとで再び作品を全部見て、よいと思った作品の名札に小さなシールをつける</p> <p>③ さらに自分が選んだ理由、今回の課題でわかったことをプリントに書き入れる</p> <p>④ そのプリントをもとに発表をし合う</p>	<p>評価項目 ・友だちの作品について、根拠をもって意見を述べることができたか (観点①④)</p>
<p>評価</p>	<p>つきたい力 ・かたちと色の配置と組み合わせについて「おさまりのよい」ところを考え、決めることができる ・絵の具をぴたっとムラなく塗ることができる。 ・友達の作品の良さやあじわいがわかる。</p> <p>評価の観点 ①関心・意欲・態度 ②発想や構想の能力 ③創造的な技能 ④鑑賞の能力</p> <p>評価の材料 ・授業観察 ・作品 ・提出状況</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>	

誌上発表5

研究主題 (題材) 水墨画で自画像を描く	領域	表現 鑑賞
提案者 中央区立 日本橋 中学校 上村 博美		
研究の視点 基礎的な表現技法を学び、活用し自己表現に結びつける。 日本美術に親しむ。		
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>中学3年生は身体的にも精神的にも成長し、自分を客観的に見つめたり分析する機会も多くある。そのような15歳の自分の姿を内面的なものも含め、自画像として表現できればと考える。また修学旅行を通して日本美術に触れる機会も多い。日常生活では、ほとんど使用しなくなった墨と筆を描画材料として使用することで、水墨画の技法を学んだり、日本や中国の作品を鑑賞し、身近なものとして親しんで日本の文化に接することができればと考える。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統美術の現代への影響など、新たな視点で生徒に日本文化に興味を持たせ鑑賞させる。 ・水墨という慣れない画材を使用することで、工夫を凝らしたり、思いがけない表現に出会ったりする楽しさを体験させる。また基本的な技術を習得させ表現力の幅を広げさせる。 ・言葉で表現した自分自身のイメージを視覚化し、自画像自体や背景に表現させる。 <p>〈学習の展開〉 全10時間計画</p>		
<p>導入 (2時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平安～江戸時代にかけての代表的な絵巻物、掛け軸、襖絵、屏風、仏像などの作品を鑑賞し学ぶ。特に鳥獣人物戯画や信貴山縁起、風神雷神図などの人物や動物、風景に描かれた樹木や水の流れなど生き生きとした動きをよく観察する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="407 1131 823 1411"> <p>①</p> </div> <div data-bbox="932 1131 1356 1411"> <p>②</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな作品を模写することで筆や墨の使い方に慣れる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="407 1478 823 1758"> <p>③</p> </div> <div data-bbox="932 1478 1434 1758"> <p>④</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・水墨画の表現技法について学び、練習する。 <div data-bbox="1050 1780 1434 2027"> <p>⑤</p> </div> <p>専門的な技法の名前を覚えるのではなく、墨の濃淡、にじみやたらし込み、かすれ、筆を運ぶ速度など、墨の五彩とも言われる豊かな表情を水、墨、筆で表せるよう練習する。</p>	

<p>展開 (7時間)</p>	<p>・自画像のテーマ、構成する要素を考えさまざまなスケッチを積み重ねながら構想を練り、絵を組み立てる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>⑥</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>⑦</p>  </div> </div> <p>・効果的な表現技法を工夫し、絵にとりいれ、水墨画による自画像を制作する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>⑧</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>⑨</p>  </div> </div> <p>ポーズや表情を工夫し線描で表現する。 この後、墨の濃淡、にじみ、ぼかし、かすれなどを利用し、明暗や服の質感などを描き込む。 さらに背景に関しても自分らしさを象徴したり、好きな風景、現実、非現実に関わらず工夫をこらし、構成し、墨で描く。</p>
<p>まとめ (1時間)</p>	<p>・完成した作品を互いに鑑賞し合う。 ・作者の思いや工夫などを感じ取ったことを述べたり、文章で書き表してみる。 ・自分の作品についての制作意図や工夫した点、感想を発表したり、文章で書き表してみる。</p>
<p>〈評 価〉</p> <p>1 美術への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の内面的なテーマを見出し、表現するために、意欲的に制作に取り組むことができる。 <p>2 発想や構想の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の個性や主張をよく引き出し、画面構成や墨の線や色の調子を通して、生き生きと表現することができる。 <p>3 創造的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水墨画の表現技法を理解し習得することで、それを活用し個性豊かな自画像の表現に、結びつけることができる。 <p>4 鑑賞の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本美術に興味を持ち、その創造精神やアイデアが現代のさまざまな分野の芸術に受け継がれていることを理解したり、その時代に生きた人々の心情に絵を通して触れることができる。 ・自分の作品について、制作意図や主題を説明したり、友達作品についての洞察、感想を述べるができる。 ・いろいろな作品のよさや楽しさを感じ、味わい、楽しむことができる。 	

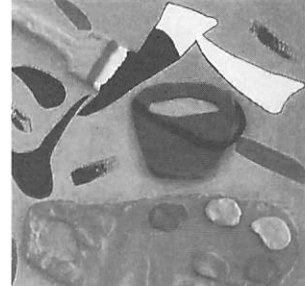
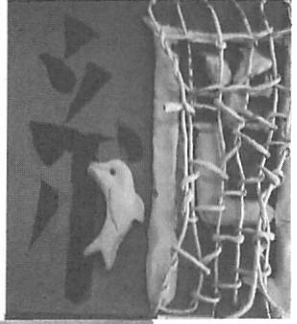
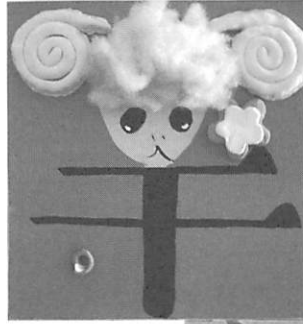
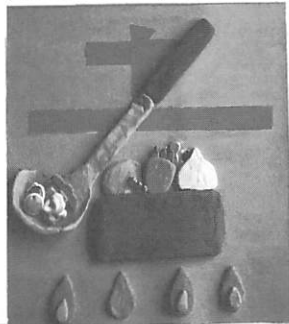
誌上発表6

研究主題（題材） 「アイデア豊かな、絵文字レリーフの制作」（1学年）		領域	表現・鑑賞
提案者	台東区立御徒町台東中学校	大谷 智子	
研究の視点 ・主体的な主題の決定 ・創造的な構成の工夫			
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>現代の子供たちは、膨大な情報やたくさんの便利な物の中で生活している。自ら苦勞したり、工夫したりしなくても、欲しいものがすぐに手に入り、そのためか、物への愛着や、こだわりが薄く、なくしても探さない、大切に使わないというような場面が多々見られる。また、美術の授業での作品制作においても、自分だけのオリジナルというこだわりが少ない生徒が多く、制作課程で、「自分の思いを入れる」というところまで考えずに安易に制作してしまうことも多い。本題材の「絵文字レリーフ」の制作では、「自分だけのオリジナル作品」というところにこだわり、主体的に制作に取り組みせることで、自分の作品への愛着・こだわりを持たせたい。</p> <p>また、作品を校舎内に展示し、鑑賞しあうことで、自己肯定感、満足感を味わわせ今後の制作意欲につながらせたいと考え、本題材を設定した。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レタリングの学習を振り返らせ、文字の持つ特徴を理解させる。 ・参考作品、資料等を活用しアイデア豊かな絵文字レリーフを考えさせる。 ・絵文字の一部を材料や用具の特性を生かし、効果的にレリーフとして表現させる。 ・自らの表現意図にあう新たな表現方法を発見し、工夫しながら個性的・創造的に表現させる。 ・制作の順序などを、自ら総合的に考えながら、見通しを持って制作させる。 ・展示された友達作品・自分の作品を鑑賞し、多様な表現方法を発見し、表現方法の工夫を見いださせる。 <p>〈学習の展開〉（8時間）</p>			
時間	主な学習活動	指導上の留意点	
導入 2時間	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品を見ながら、作品の良さを味わいつつ、今後の制作活動について理解する。 ○テーマとなる文字を探す。 ○絵となる部分、レリーフとなる部分、レタリングの部分を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の表現意図について明確にする。 ・ワークシートに描く。 ○レリーフにする部分の素材を考える。 ○配色を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品を提示し、制作活動について理解させ、参考作品の良さを味わわせる。 ・レタリング辞典を活用しながら、絵文字レリーフにする文字を探させる。 ・図鑑等の資料を活用し、スケッチなどを行いながら、考えさせる。（ワークシートを用い、順序立てて進めさせる。） ・レリーフにする部分をどのような表現にするかアイデア豊かな発想ができるよう、資料を活用しながら考えさせる。 ・どのような素材を使えば、より、表現意図を作品に表せるか考えさせる。 <p>（基本的には粘土を使用するが、その他の素材、針金、木材、紐、糸、綿、等、素材の例をあげ、個性豊かな発想を支援する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12色相環、混色辞典を活用し、色の特性を理解させながら、配色計画を行わせる。 	



<p>展 開</p> <p>5 時間</p>	<p>○アイディアスケッチを元に、画用紙に下書きをする。</p> <p>○直接彩色する部分とレリーフにする部分とを区別しながら、自分のアイディアにふさわしい制作手順を考えながら制作を進める。</p> <p>○自分の表現意図に合う、材料・道具を用い、工夫を重ねる。</p> <p>○仕上げ方法を考える。 (ニス仕上げ、素地仕上げ。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レタリングの学習を振り返りながら、画用紙に配置よくレタリングをさせる。 ・各自の制作計画に基づいて、直接彩色する部分とレリーフにする部分を考えさせながら、各自、制作順序を総合的に考えさせる。 <p>○生徒一人一人が、表現意図に合う、新たな表現方法を発見できるよう、支援していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの固定観念にとらわれないよう、個別指導を繰り返しながら、一人一人が、生き生きと制作できるよう支援していく。 ・仕上げ方法については、どうしたら最も有効的な仕上げになるか、個別に考えさせる。 ・工夫している生徒の作品を、その都度紹介しながら、お互い参考にするよう促す。
<p>まとめ</p> <p>1 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の作品を鑑賞し、多様な表現を味わい、それぞれの表現の工夫を見いだす。 ○ 自分の作品について、思い通り制作できたか、良かった点、改善点を制作記録カードにまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品を鑑賞させ、様々な工夫点・感想を鑑賞カードに記入させる。 ・今回の制作について、自分の作品を客観的に見させ、良かった点や、改善点をまとめさせ、次の制作意欲につなげていく。




〈評 価〉

- ・レタリングの学習の基礎基本を生かし、意欲をもってオリジナルの絵文字レリーフの制作ができたか。
- ・期限を守って作品を提出することができたか。【関心・意欲・態度】
- ・参考作品、資料を活用しアイディア豊かな絵文字レリーフを考えることができたか。
- ・自分のだけのオリジナルというこだわりをもち、発想・構成することができたか。【発想や構想の能力】
- ・絵文字の一部を材料や用具の特性を生かし、効果的にレリーフとして表現することができたか。
- ・自らの表現意図にあう新たな表現方法を発見し、工夫しながら個性的・創造的に表現することができたか。【創造的な技能】
- ・友達の作品を鑑賞し、多様な表現を味わい、表現の工夫を見いだすことができたか。
- ・展示された自分の作品を客観的に見て、良かった点・改善点をまとめることができたか。【鑑賞の能力】

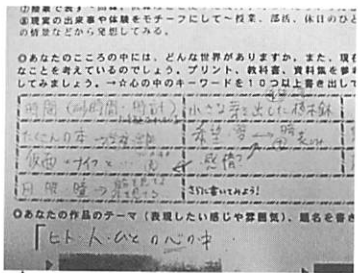





誌上発表7

研究主題（題材）	有名な作品をじっくり鑑賞して話し合おう！ ～ロダン「考える人」、モネ「睡蓮」から～	領域	鑑賞
提案者	台東区立上野中学校	教諭	高原 都
研究の視点	発見からの対話式鑑賞（パソコン、プロジェクターを使用するの教室での鑑賞教育の工夫）		
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>鑑賞教育の充実が求められる中、鑑賞教育の工夫が大切になっている。本校は近くに美術館が隣接しており、実物の作品を見せられる恵まれた環境にある。しかし、時間割調整をしなければなかなか1時間の授業で引率して美術館に連れて行くことは困難である。そのため、鑑賞に少しでも興味が持て、自分で美術館を訪れて本物の作品が見たくなるような授業が効果的であると考えた。</p> <p>国立西洋美術館の有名な彫刻作品と絵画作品に焦点をあて、最近美術館で行われているギャラリートークを授業に導入し、一方的に教師が資料を見せて解説するのではなく、よく見て発見しながら自分の意見を述べたり、友人の意見も聞いたりして作品に対する見方を深めていけるような方法を取り、また、作品により興味が持てるように、自分だったらという想定でのスケッチを描かせ、自分や友人の作品も同時に鑑賞しながら、巨匠の作品が親近感をもって見られるように考えた。スクリーンを見て、自分でも本物の作品を見に行きたいという好奇心や、ひいては自分の今後の作品制作意欲にもつながればと考え、この題材を設定した。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品をじっくり見て、発見したことを大切に、気付きからの対話形式で、自分の考えや、友人の考えを聞き、多面的に作品を見て考える力を育てる。 ・身近にある美術館の作品を通じて、鑑賞に対する興味関心を引き出し、造形に対する意欲を喚起する。 <p>〈学習の展開〉 全2時間 用意：作品資料（パソコン、プロジェクター、スクリーン） 補助写真資料、ワークシート、解説プリント</p>			
時間	学習活動	指導上の留意点（評価の観点）	
導入 1	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞をするにあたって、国立西洋美術館の彫刻作品と絵画作品をじっくり鑑賞することについて理解する。作品を見たことがあるか、自分の経験を述べる。 ・彫刻の分野や技法について学ぶ。 ・ロダン「考える人」について、自分だったらどんな「考える人」を造るか、用紙に鉛筆でアイディアスケッチを描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立西洋美術館にある有名な作品について知っているか、また西洋美術館を訪れたことがあるか、全体の様子を聞き、お互いに理解しあう。 ・造り方の技法に彫造や塑造などの種類があることを、資料集などを使い説明する。 ・詳しく「考える人」について話さず、自由な発想で描かせる。次回、アイディアスケッチを使い、みんなの作品も鑑賞することを伝える。（関心・意欲・態度、発想や構想の能力、創造的な技能） 	
	 <p>各自のアイディアスケッチ</p>		

時 間	学習活動	指導上の留意点
展 開 1	<ul style="list-style-type: none"> ・前時での学習を振り返り確認する。 ・鑑賞する際のルールを理解する。 ・スクリーンの作品をしっかりとよく見る。 ・ワークシートの記入の仕方を確認する。 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">  </div> <ol style="list-style-type: none"> (1) ロダン彫刻「考える人」の作品を鑑賞する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 気付いたことをワークシートに書く。発言する。 ② 同じポーズをとって考える。 ③ 何でできているかを考える。 ④ 何を考えているかを考える。 ⑤ ロダンについての解説を聞く。地獄の門と考える人の作品を見る。作者のエピソードや作品の関連性を学ぶ。 (2) みんなの描いた「考える人」の絵を鑑賞する。作品の良い点をあげて発言する。友人の考えも聞く。 (3) モネの油絵「睡蓮」の作品を鑑賞する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 睡蓮の写真を見ながらモネの絵と比較して気付いたことをワークシートに書く。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;">   </div> <ol style="list-style-type: none"> ② 自分の意見を発表する。友人の意見を聞く。 ③ モネの睡蓮についての解説を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注目させ、鑑賞の流れを把握させ、共にフランスの巨匠など、ロダンとモネの共通点を探り興味を持たす。 ・鑑賞のルールを守らせるように指示する。 ・ワークシートを配布し、いい加減に記入しないように注意する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 様々な角度から撮った考える人の作品を鑑賞させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の気づいたことを事実と客観的なことに分けて板書する。 ・全員に同じポーズをとらせる。代表を一人出す。 ・彫刻の分野を復習し、ブロンズについて説明する。 ・いろいろな意見を出させ、表情やポーズから考え方を深めさせる。 ・地獄の門との関連や、作者の制作したエピソードなどを話す。 (2) みんなの作品を印刷したプリントを参考として配布する。スクリーンにも作品を写して分かりやすくする。 <ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布し、友人の作品をよく見させ、多様な表現があること、また類似性やロダンとの比較についてもふれる。 ・睡蓮の花について知っているかを聞き、睡蓮の花の写真を見せて考えさせる。 ・生徒の発言を書きとめながら、モネの描き方に注目させていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・近づいて見ると大まかに描かれていること離れて見ると睡蓮に見えることなどに注目させる。 ・日本へのあこがれや、モネの家の日本庭園庭の話などのエピソードを話す。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめのプリントを見る。 ・今日の授業を振り返って、わかったことや、感想をワークシートに書く。 ・自分の考えを発表する。友人の発言を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解説資料プリントを配布し説明する。 ・本時の鑑賞の感想を具体的に書かせる。 ・最後にワークシートを回収する。 <p style="text-align: center;">(関心・意欲・態度、鑑賞の能力)</p>
<p>< 評 価 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だったらどのような「考える人」の形を造るかイメージをふくらませ、表現することができたか。 ・作品をじっくり真剣に見て、発見し、しっかりと自分の考えを記述し、発言することができたか。 ・作品や作者についての興味・関心を持ち、鑑賞の面白さを味わうことができたか。 ・作者についても理解が深められたか。 ・友人の作品の良いところを味わい、客観的に作品を鑑賞することができたか。 		

誌上発表8

研究主題 (題材) 「こころの中の世界から ～ボールペンによる空想画～」(3 学年)		領域	表現(絵・彫刻)
提案者 足立区立花保中学校		平岡 いづみ	
研究の視点 自分をみつめる美術活動			
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>本題材を扱うに当たり、対象となる学年に対して1年次に絵画や彫刻作品の制作を通し対象を見つめ、その良さを感じ取り、味わいながら、具象的に表現する力を養い、2年次ではデザイン工芸作品の制作を通し、発想し構想する能力を育ててきた。表現活動の前後に鑑賞活動を取り入れ、美術科指導目標の達成に努めてきた。</p> <p>3年次で扱った「空想画」という題材は、自分の心という対象と向き合い、夢や感情を基に主題を生み出し表現するという、2・3年次の指導目標に即した内容であり、1・2年次に培ってきた様々な能力を発展させて取り組むことができる内容である。空想画の授業では、生徒自らが心を動かされたものを表現し、生徒作品を鑑賞できるという自由さがあり、それゆえの難しさがある。そのことでかえって生徒の創作意欲をかき立て、鑑賞活動にも力を入れさせることができる。指導の難しさはあるものの大変魅力的な内容と言えるため、題材に設定した。</p> <p>〈指導のねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己を深く見つめ、考えや感じていることから表現したい主題を見だし、空想的に表現することで自己表現の喜びを味わう。 ・ボールペンならではの表現のよさ・美しさを感じ取り、特性を活かして表現する。 ・様々な美術作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、味わう。 <p>〈学習の展開〉</p>			
	学習活動	指導上の留意点	具体的な評価の観点
導入 4時間	<ul style="list-style-type: none"> ○西洋美術史の作品を鑑賞する(鑑賞授業の一環として)。 ○授業の目標、制作手順を理解する。 ○様々な空想画作品から表現の手がかりを知り、ワークシートに「こころの中のキーワード」や「テーマ」を書き出す。 ○キーワードを基にアイデアスケッチを描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○西洋美術作品の鑑賞を通し造形的なよさや美しさを味わいながら、作者の心情や意図について考え、自分の意見や考え方を深めさせる。 ○身近なところに空想表現の手がかりが潜んでいることに気づかせる。 ○キーワードやテーマから作品を起こすまでのヒントを例示し、できるだけ沢山のアイデアを出させる。 ○簡単なスケッチでも作品づくりに大いに役立つことを話し、表現の手を止めないように励ます。 	<p>(IV) 様々な表現方法や作者の制作意図を知り、自己の美意識や興味関心の対象に気づく。</p> <p>(I) 自分の思いを見つめようとしている。</p> <p>(II) 自分が表現したいテーマについて思いを巡らせ、言葉やスケッチとして表現している。</p>
			 <p>↑ワークシートにテーマやキーワードを記入</p>

<p>展開 13時間</p>	<p>○魅力的な画面構成のためのヒントについて学ぶ。 ○アイデアスケッチを基に下絵を描く。 ○画用紙に枠を作る。 ○画用紙に鉛筆で下描きをする。 ○ボールペンでの描画方法について学ぶ。 ○ボールペンで本描きに入る。 ○修正液でハイライトを入れ、細かい部分を描き込み、仕上げる。</p>	<p>○テーマの重要性、遠近法、組み合わせや配置の工夫、アイテムの豊富さ、自画像について等、具体的に示す。 ○大まかなイメージを大切に、画面構成のためのヒントを意識し描かせる。 ○ハッチング、グラデーション、タッチのいろいろ、立体感の出し方について等具体的に示す。 ○初めは軽く、段々筆圧を上げて描き込むよう指導する。</p>  <p>↑アイデアスケッチ</p>	<p>(II) 表現したい空想世界を、ヒントを基に想像力豊かに表現している。 (III) 下絵を基に工夫を加えながら表現している。 (I) 根気よく熱心に描き込んでいる。 (III) ボールペンでグラデーションが作れる。 (III) ハッチングやグラデーション、タッチを工夫し表現に生かしている。</p>  <p>↑構築段階の下絵</p>
<p>まとめ 1時間</p>	<p>○自分の作品について振り返り、クラスメイトの作品を鑑賞し、感じたことや考えたことをプリントに書く。</p>	<p>○作者の表現意図を読み取り、どこが美しく、どこが素敵だったかなど具体的に考えながら鑑賞させる。</p>	<p>(IV) 自分自身の制作を振り返りながら、作者の心情や表現意図に迫り、作品の良さや美しさを感じ取り、味わう。</p>
<p>〈評価〉</p> <p>I 【美術に対する関心 意欲 態度】 積極的に授業に参加し、自己を見つめ意欲的に取り組んでいる。充実した表現や鑑賞の時間の創造に努めている。</p> <p>II 【発想や構想の能力】 自己を見つめ、主題を見だし、独創的で豊かな発想をし、キーワードやアイデアスケッチを出しながら自分らしい発想や構想をまとめることができている。</p> <p>III 【創造的な技能】 創作活動に必要な基本的技能や知識を理解し、身に付け、自分の発想や構想を実現することに役立っている。</p> <p>IV 【鑑賞の能力】 作者の心情や表現意図、工夫の仕方、創造力の豊かさなどを生徒作品から感じ取り、制作背景についての理解や見方を深めている。</p>  <p>↑完成作品</p>			

誌上発表9

研究主題 (題材) 構成自画像の制作 ～油絵具を使って～	領域	A 表現
提案者 足立区立第十中学校 鋏形 志穂		
研究の視点 自画像の制作を通じて、作品との向き合い方や表現に対する自分の考えを構築する。		
<p>(題材設定の理由)</p> <p>多くの画家が描いてきた自画像は、作者のその時々での自己の在り方を、自分とは何かを確かめるべく描き留めてきたものである。自画像を描くということは、自己の内面性を追求し自己の存在とその意義を考えることにも繋がる。「自分とは何か」、「自分はどうしたいのか」と自問自答する中で自己を再確認させられる良い機会に成り得ると考え、本題材を設定した。</p> <p>しかし、それほど多くの絵を描く機会をもたずにきた大方の生徒たちにとって、自分を描くということ以前に、じっくりと一つの対象を見つめ描くという作業自体が難しい。そこで今回、描写力が及ばなくとも自分らしさを表現することができるよう、色彩の雰囲気や背景に自分の好みを反映させることで他の作品との違いを出させ、背景への工夫を制作上の条件とした。</p> <p>本題材では絵画表現において油彩画を初めて体験する生徒が多いことを想定し、油彩用具の基本的な使用法を学ばせたい。また、画材の効果的な活用方法を体験しながら、対象の存在感に迫る表現を工夫できるようにしたい。様々な技法を駆使し、工夫を凝らすことで各々の作品に異なった味わいが出てくることを期待したい。</p> <p>(指導のねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 試行錯誤を重ねながら、自分のイメージを追求し、最後まで意欲的に取り組むことができる。 【美術への関心・意欲・態度】 ○ 材料、形態、構成などを工夫し、自分らしく豊かな発想で構想を練ることができる。 【発想や構想の能力】 ○ 完成度を高めるために、色彩や材質感、細部の書き込みなどに留意し、自分のイメージを表現することができる。 【創造的な技能】 ○ 自他の作品を通して、作者の意図や表現の工夫などを理解し、多様な表現のよさや美しさを味わうことができる。 【鑑賞の能力】 <p>(学習の展開)</p>		
	主な学習活動	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ○油彩画について、水彩画との相違について理解する。 ○教科書の作品や生徒の作品を鑑賞し、そのよさや美しさ、表現の面白さを理解する。 ○用具の使用法と油彩画制作の進め方について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○油絵画と水彩画の相違を、パワーポイントを用いて説明する。 ○油絵の特性に注目させながら興味を引き立てる。 ○用具の名称や使用法、及び油絵制作の進め方を示す。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○人物と背景の組み合わせを意識しながら、エスキースをする。 ○エスキースを基に下絵を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小さな画面で効果的にエスキースが描けるよう、エスキースの有効性を意識させながら描かせる。 ○エスキースの転写で終わらせず、キャンバスに実際に描きながら改善していくように描かせる。

<p>展 開</p>	<p>○油彩画の効果的な表現技法を知る。</p> <p>○カマイユ技法で下絵に着色する。</p> <p>○油絵具の特性をいかして、自分なりの表現方法を工夫する。</p>	<p>○油彩の様々な技法を、パワーポイントを用いて分かりやすく説明する。</p> <p>○ペインティングナイフの使い方は実際にキャンバス上で実演してみせる。</p> <p>○特に明暗の部分に注目させ、形体の特徴を把握させる。背景も、空間を意識しながら着色させる。</p> <p>○着色の流れを説明する。原色や黒をなるべく使用させず、混色に工夫を凝らすよう促す。</p> <p>○画面全体にバランスよく手が入るよう机間指導しながら助言する。塗り直しや塗り重ねを積極的に勧める。</p> <p>○床面や背景ともものとの相互関係を意識させ、空間を感じさせる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>○作品を並べ、制作意図や表現の工夫等を発表する。</p> <p>○相互の作品鑑賞を通して、友人の作品のよさや工夫を感じ取る。</p> <p>○鑑賞後、ワークシートに反省・感想を記入する。</p>	<p>○クラス全員の作品を展示し、何人かに感想を述べさせ、講評する。</p> <p>○ワークシートの記入状況を確認する。</p>

〈評 価〉

- 試行錯誤を重ねながら、自分のイメージを追求し、最後まで意欲的に取り組むことができたか。
【美術への関心・意欲・態度】
- 材料、形態、構成などを工夫し、自分らしく豊かな発想で構想を練ることができたか。
【発想や構想の能力】
- 完成度を高めるために、色彩や材質感、細部の書き込みなどに留意し、自分のイメージを表現することができたか。
【創造的な技能】
- 自他の作品を通して、作者の意図や表現の工夫などを理解し、多様な表現のよさや美しさを味わうことができたか。
【鑑賞の能力】

制作中の様子



作 品 例

誌上発表10

研究主題（題材）	螺鈿工芸「小皿作り」（2学年）	領域	表現（工芸）												
提案者	足立区立谷中中学校	水上	智美												
研究の視点	<ul style="list-style-type: none"> 日本の美術や伝統と文化に対する理解 美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料を複合的に取り入れ、装飾を考える 														
<p>〈題材設定の理由〉</p> <p>日本の漆器工芸は、北は青森県津軽塗から南は沖縄県の琉球塗まで日本全国にその産地があり、また、輪島塗の地には6800年前の漆塗製品が遺跡から発見されているほど歴史のあるものである。私たちの生活においてもよく見るものだが、生徒たちは世界に誇れる日本の伝統工芸であることを理解していない生徒が多い。作品を鑑賞し、漆のこと、螺鈿や蒔絵、沈金などの技法を知り、日本の美術文化のよさを十分に味わい、よきものとして愛着をもたせたい。そして、その伝統的な美的感覚をイメージさせ、新たな創造への関心をもたせていきたいと考え本題材を設定した。</p>															
<p>〈指導のねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝統工芸のすばらしさや和紙と螺鈿のおりなすイメージを考え、発想豊かに、楽しく表現する。 螺鈿工芸の持つ美しさを生かしつつ、自分だけのデザイン構成を作り出す。 制作工程や道具の使い方を理解し、皿にあった効果的な配色で丁寧に装飾をする。 互いの作品の良さを分かち合い、鑑賞活動を通して自己理解、他者理解を深める。 															
<p>〈学習の展開〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学 習 活 動</th> <th>指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>導 入</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 漆工芸や螺鈿について、その歴史を学ぶ。 漆工芸の技法を知る。 これからの活動内容を理解する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 図書資料や技法のプリントを用意する。 </td> </tr> <tr> <td>展 開</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 土台となる色を選び、皿のデザインを構想する。 絵の具が乾いたら、上からニスを塗る。 和紙をみながら、皿の色との組み合わせを考えて和紙を選ぶ。 選んだ和紙を皿に貼る形に切り取る。 切り取った和紙を皿に配置しながら、皿のデザインのレイアウトをする。 レイアウトが完成したら、ニスで和紙を貼る。 乾いたら螺鈿装飾をニスで貼っていく。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> なかなか構想できずにいる生徒にはヒントになるような形を助言し、見本を見せる。 </td> </tr> <tr> <td>ま と め</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自分の作品を振り返る。 友達の作品のよいところを探しながら完成作品を鑑賞し合い、まとめプリントに記入させる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自他の作品の違いやおもしろさを感じ取ることができたか振り返らせる。 </td> </tr> </tbody> </table>					学 習 活 動	指導上の留意点	導 入	<ul style="list-style-type: none"> 漆工芸や螺鈿について、その歴史を学ぶ。 漆工芸の技法を知る。 これからの活動内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書資料や技法のプリントを用意する。 	展 開	<ul style="list-style-type: none"> 土台となる色を選び、皿のデザインを構想する。 絵の具が乾いたら、上からニスを塗る。 和紙をみながら、皿の色との組み合わせを考えて和紙を選ぶ。 選んだ和紙を皿に貼る形に切り取る。 切り取った和紙を皿に配置しながら、皿のデザインのレイアウトをする。 レイアウトが完成したら、ニスで和紙を貼る。 乾いたら螺鈿装飾をニスで貼っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> なかなか構想できずにいる生徒にはヒントになるような形を助言し、見本を見せる。 	ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品を振り返る。 友達の作品のよいところを探しながら完成作品を鑑賞し合い、まとめプリントに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の作品の違いやおもしろさを感じ取ることができたか振り返らせる。
	学 習 活 動	指導上の留意点													
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 漆工芸や螺鈿について、その歴史を学ぶ。 漆工芸の技法を知る。 これからの活動内容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書資料や技法のプリントを用意する。 													
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 土台となる色を選び、皿のデザインを構想する。 絵の具が乾いたら、上からニスを塗る。 和紙をみながら、皿の色との組み合わせを考えて和紙を選ぶ。 選んだ和紙を皿に貼る形に切り取る。 切り取った和紙を皿に配置しながら、皿のデザインのレイアウトをする。 レイアウトが完成したら、ニスで和紙を貼る。 乾いたら螺鈿装飾をニスで貼っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> なかなか構想できずにいる生徒にはヒントになるような形を助言し、見本を見せる。 													
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品を振り返る。 友達の作品のよいところを探しながら完成作品を鑑賞し合い、まとめプリントに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の作品の違いやおもしろさを感じ取ることができたか振り返らせる。 													
<p>〈評 価〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A 美術への意欲・関心・態度</th> <th>B 発想や構想の能力</th> <th>C 創造的な技能</th> <th>D 鑑賞の能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伝統工芸を制作する楽しさを味わい、独自の画面構成を意欲的に作ろうとする。</td> <td>和紙や装飾品のイメージから、形や色の発想を広げ、個性的な皿の画面を作り出せる。</td> <td>デザインの発展的な考え方や螺鈿工芸技法に関して自分なりの工夫ができる。</td> <td>自分や友達の作品を鑑賞し、その良さを味わうことができる。</td> </tr> </tbody> </table>				A 美術への意欲・関心・態度	B 発想や構想の能力	C 創造的な技能	D 鑑賞の能力	伝統工芸を制作する楽しさを味わい、独自の画面構成を意欲的に作ろうとする。	和紙や装飾品のイメージから、形や色の発想を広げ、個性的な皿の画面を作り出せる。	デザインの発展的な考え方や螺鈿工芸技法に関して自分なりの工夫ができる。	自分や友達の作品を鑑賞し、その良さを味わうことができる。				
A 美術への意欲・関心・態度	B 発想や構想の能力	C 創造的な技能	D 鑑賞の能力												
伝統工芸を制作する楽しさを味わい、独自の画面構成を意欲的に作ろうとする。	和紙や装飾品のイメージから、形や色の発想を広げ、個性的な皿の画面を作り出せる。	デザインの発展的な考え方や螺鈿工芸技法に関して自分なりの工夫ができる。	自分や友達の作品を鑑賞し、その良さを味わうことができる。												

VI あとがき

子どもたちを取り巻く現代社会は、技術革新が進み情報があふれ、急速に変化しています。そのような変化の中で、学校教育に求められるものも大きく変わろうとしています。「知識基盤社会」といわれる世の中で生活する子どもたちには、新しい知識・情報・技術をいち早く取り入れ活用する力を身につけることが求められていますし、グローバル化が進む国際社会で生活するためには、自分たちが生活する国や地域を見つめ、異なる文化や歴史に敬意を払い、他と共存してよりよい社会を形成していこうとする態度が求められています。

このような時代の要請は、美術教育に対しても例外ではありません。平成24年度に全面実施を控えた新学習指導要領でも多くの改善点が盛り込まれています。私たちも教師として、新しい時代を担う子どもたちの育成に全力で当たらなければならないことは言うまでもありません。しかし、このような急速な変化の時代だからこそ美術教師として忘れてはならないことがあると考えています。私たちは日々の授業の中で、子どもたちが創造的な体験をし感性を豊かにして、自らの夢や可能性の世界を拓げていくことを感じています。だからこそ、子どもたち一人一人の個性を生かし、豊かな情操を養う美術教育の重要性を今まで以上に訴えていくことの責任を強く認識しなければいけないと考えています。

今回、東京都中学校美術教育研究会第5ブロック大会（荒川大会）を開催するにあたり、もともと基本となる授業内容や形態という原点に立ち返ることを研究の根幹に置きました。そんな思いから大会テーマを「イメージを形に ～鉛筆デッサンから自己表現まで～」と決定しました。多種多様な表現手段の発達と普及の中で、あえて1本の鉛筆によるデッサンから自己表現へ拓げていく過程にこそ、創造的な体験があり、それこそが人間としての豊かな感性を育むものであることを確信しているからです。

第28回東京都中学校美術教育研究会第5ブロック大会（荒川大会）では、第5ブロックの中央、台東、荒川、足立の各区の会員を中心に研究を続け、本日実践発表、研究授業、作品展示を行うことができました。今回実施された公開授業や紙上発表されたすべての授業実践では、授業を見直しての検証が行われています。そして、今後もこの検証の結果をさらに満足のものにするよう努力を続けていきたいと考えています。そして、今美術教育を受けているすべての子どもたちが、将来においても美術文化に関心を持ち主体的に関わり、身の回りの造形や美術によって生活を美しく豊かにしていることを望んでいます。

最後になりましたが、今回の大会の実施にあたり東京都教育委員会、中央区、台東区、荒川区、足立区の各教育委員会、東京都中学校長会、東京都中学校教育研究会、荒川区立中学校長会ならびに荒川区教育研究会には並々ならぬご指導、ご鞭撻をいただきましたことを心から感謝申し上げます。特に準備から大会当日まで会場を提供していただきました荒川区立第三中学校には重ねてお礼申し上げます。

大会副実行委員長 池田 浩二（中野区立第三中学校）

VII 大会組織一覽

大会会長	西東京市立ひばりが丘中学校	大野 雅生
都中美事務局長	東久留米市立大門中学校	土田 貢司
大会実行委員長	荒川区立第七中学校	藤崎 勝
大会副実行委員長	中野区立第三中学校	池田 浩二
実行委員会事務局長	荒川区立第一中学校	田原 好子
次長	荒川区立第四中学校	小林 秀樹
局員	荒川区立第九中学校	小針奈都子
	台東区立上野中学校	高原 都
	足立区立第十一中学校	峰村 勝
	足立区立六月中学校	新田 弘子
実行委員会研究局長	中央区立日本橋中学校	上村 博美
次長	台東区立柏葉中学校	橋本 竜夫
局員	中央区立佃中学校	横山 寿子
	中央区立晴海中学校	初鹿野和子
	中央区立銀座中学校	小島 晴美
	台東区立御徒町台東中学校	大谷 智子
	足立区立千寿桜堤中学校	長谷川詩子
	足立区立青井中学校	三浦 悦子
	足立区立入谷南中学校	佐久間善紀
	荒川区立第五中学校	玉井かおり
	荒川区立諏訪台中学校	田邊 薫
実行委員会編集局長	足立区立第七中学校	丹野 律子
次長	足立区立第十中学校	鍬形 志穂
局員	足立区立第十四中学校	石川 登
	荒川区立南千住第二中学校	鈴木 祥子
	台東区立忍岡中学校	大山 泰子
実行委員会庶務局長	荒川区立第三中学校	梶田久仁子
次長	荒川区立尾久八幡中学校	宗広 優子
局員	足立区立谷中中学校	水上 智子
	台東区立浅草中学校	石渡 聖一

VII 都中美大会開催地一覧

開催日	開催地 (会場)	大会主題 (大会副主題)
第1回 S58.11.18	品川区 品川総合教育会館	「感動を持って創り出す力を高める美術教育」
第2回 S59.11.20	府中市 府中市立教育センター	「未来を拓く人づくりをめざす美術教育」
第3回 S60.11.27～28	豊島区関プロ大会と合同大会 豊島区立千川中学校	「素材と創造者たち」
第4回 S61.10.9	中野区 中野区立第七中学校	「創作意欲をおこさせ表現力をたかめる授業の進め方」
第5回 S62.10.9	立川市 立川市立第九中学校	「崩壊か、低迷か、創造か」
第6回 S63.11.25	新宿区 (都区研・都中美合同大会) 新宿区立西戸山中学校・同早稲田小学校	「想像の大地をめざして」 —伸びる・ふれあう・美術の根—
第7回 H元.10.20	北区 北区立神谷中学校	「やる気見つけた！」 —みずからの生き方につながる造形活動をめざして—
第8回 H2.11.22	新宿区 神楽坂エミール	「感動が人を創る」 —自らをたがやす生徒の育成をめざす美術教育—
第9回 H3.10.22	第5ブロック 荒川大会 荒川区立南千住第二中学校	「創るよろこび、生きるよろこび」 —今なぜ美術教育か—
第10回 H4.10.20	第6ブロック 江戸川大会 江戸川区立小松川第二中学校	「感性が輝くとき」 —今、創造の意味を考える—
第11回 H5.11.18	第7ブロック 八王子大会 八王子市立浅川中学校	「主体的表現と個性の輝きをもとめて」 —心の教育と21世紀へ向けての美術教育—
第12回 H6.10.4	本部大会 東京国立近代美術館・神楽坂エミール	「新たな美術教育の展開を求めて」 —美術館との連携と鑑賞教育の可能性—
第13回 H7.11.14	第8・9・10ブロック 北多摩大会 武蔵野市立第六中学校	「きらめく感性 あふれる創造」 —子どもが伸びる授業づくりをめざして—
第14回 H8.10.4	第1ブロック 大田区全造連・関プロ大会と合同大会 大田区民センター	「美術と環境—心の軌跡」
第15回 H10.1.22	第2ブロック 世田谷大会 世田谷美術館	「根幹と広がり」 —美術を好きになるには—立体表現を通して—
第16回 H11.1.28	第3ブロック 練馬大会 練馬区立豊玉第二中学校	「現在、美術は増殖する」 —学校から地域へ生涯へ—
第17回 H11.11.19	第11ブロック 西多摩大会 西多摩郡日の出町立大久野中学校	「地域から発想」 —自然・伝統・生活を見つめて—
第18回 H12.11.16	第4ブロック 板橋大会 板橋区立加賀中学校	「美術の時間は発見ワールド」 —21世紀の美術は感性を呼び覚ます—
第19回 H13.11.22	第5ブロック 足立大会 足立区立第十四中学校・西新井キヤクティ	「豊かな感性が21世紀を創る」 —人権・共生・環境教育の原点としての美術—
第20回 H14.11.21	第6ブロック 墨田大会 墨田区立墨田中学校	「美術・生命の泉」 —わき出す想像、広がる創造—
第21回 H15.11.28	第7ブロック 八王子全造連・関プロ大会と合同大会 八王子長房中学校	「創ることは生きること」 —人間・さらなる成長をめざして—
第22回 H16.11.5	第1ブロック 品川大会 品川区立富士見台中学校	「観る 鑑る 未来る」 —転換期における美術教育—
第23回 H17.11.18	第2ブロック 新宿大会 新宿区立落合第二中学校	「創造は生徒を変える」
第24回 H18.11.17	第3ブロック 中野大会 中野区立中野富士見中学校	「みんなの美術」 —感動と創造は未来を拓く—
第25回 H19.11.8～9	第4ブロック 文京大会 47回関東甲信越静地区造形教育研究大会 東京大会	人間形成としての造形美術教育 —新しい教育課程にどう対応するか—
第26回 H21.1.16	第8・9・10ブロック 北多摩大会 (府中大会) 府中市立浅間中学校・府中市美術館	「人間力をはぐくむ美術教育—いま、求められる創造性」 —豊かな「かかわり」を生み出す美術の授業—
第27回 H21.11.13	第6ブロック 葛飾大会 葛飾区上平井中学校	メッセージ ～色・形・ことばからの発信～
第28回 H22.11.9	第5ブロック 荒川大会 荒川区立第三中学校	「イメージを形に」 ～鉛筆デッサンから自己表現まで～

